

兒島ハ薩摩、大隅及ビ大隅諸島ヲ管スル鹿兒島縣廳ノ所在地ニシテ、維新ノ元勳、蓋世ノ英雄西郷隆盛ガ生マレシ所、其ノ市西ナル城山ハ十年ノ役ニ隆盛ガ敗死セシ所ナリ。此地亦陶器及ビ薩摩、紼ヲ産ス、然レドモ薩摩、紼ノ多クハ實ニ琉球ノ産ナリ。灣内ノ櫻島ハ大根ニ有名ナリ、其ノ櫻島岳ハ形富士ニ似タル活火山ナリ。鹿兒島ヨリ南ノ方沿海ノ縣道ヲ行ケバ、軍馬育成所アリ、煙草ノ產地アリ。國ノ南端ニ峙テルハ薩摩富士ト稱セララルル海門岳カモシタケ（又開聞岳）ニシテ、航海ノ目標タリ、其ノ西方ノ海濱ハ鰹ノ漁獵盛ンニ、薩摩節ハ土佐節ニ次ギテ天下ニ稱セララル。凡ソ馬、烟草、及ビ黃金ハ薩隅處處ニ産出シ、殊ニ黃金ハ産額佐渡ニ伯仲セリ。甘藷ハ四時到ル處之ヲ産シ、國人ノ常食タリ、故ニ「さつまい

山

もト云フ。

圓錐形ノ山

櫻島及ビ海門岳ハ霧島火山脈ニシテ、延キテ海南ノ諸島及ビ臺灣ニ至リ、北ハ肥後ノ海岸ニ延ビテ、肥前ノ温泉岳ニ接セリ。我等ハ前章ヨリ南部富士、津輕富士、但馬富士、豊後富士、薩摩富士等諸火山ノ名ヲ聞ケリ、以テ火山ニハ圓錐形ノ者多キヲ知ルヘシ。更ニ鹿兒島ニ立返ラン。國道ハ鹿兒島ヨリ大隅ニ入ル。大隅ノ國分ハ煙草ノ產地ニシテ、所謂薩摩國府是ナリ。其レヨリ日向ノ都城ニ會スル道アリ。薩隅ノ地ハ上古ノ熊襲國ニシテ、國人今猶豪勇慍悍ニ名アリ。

大隅諸島又薩南諸島トモ稱セララル、薩隅ヨリ西南ニ列シ

テ琉球ニ接スル島嶼ナリ。大隅ニ最モ近キ細長キ島ハ種子島ニシテ、天文年中西洋人初メテ鐵砲ヲ傳ヘシ地ナリ。屋久島ハ鯨節ヲ産シ、寶七島一名土噶喇群島ハ七島表(疊表)ノ產地ナリ。次ニ大島ハ大島、紬ノ產地ニシテ、之ニ並ビテ喜界島アリ。其ノ他德之島、沖之、永良部島、輿論島ヲ重ナル者トス。

琉球

琉球ハ源爲朝ガ伊豆ノ大島ヨリ逃レ來リシ所ニシテ、其ノ子舜天王内亂ヲ平ゲテ王位ニ居リ、子孫相承ケテ明治ノ世ニ至レリト云フ。近代マデ日清兩屬ト稱シテ兩方ニ朝貢セシヲ、維新ニ至リ吾ガ國ニ專屬セシメ、一致ノ政治ノ下ニ沖繩縣トセラレタリ。

那覇



首里中山門

琉球泡盛及ビ琉球塗皆有名ナリ。那覇近邊ナル首里ハ舊

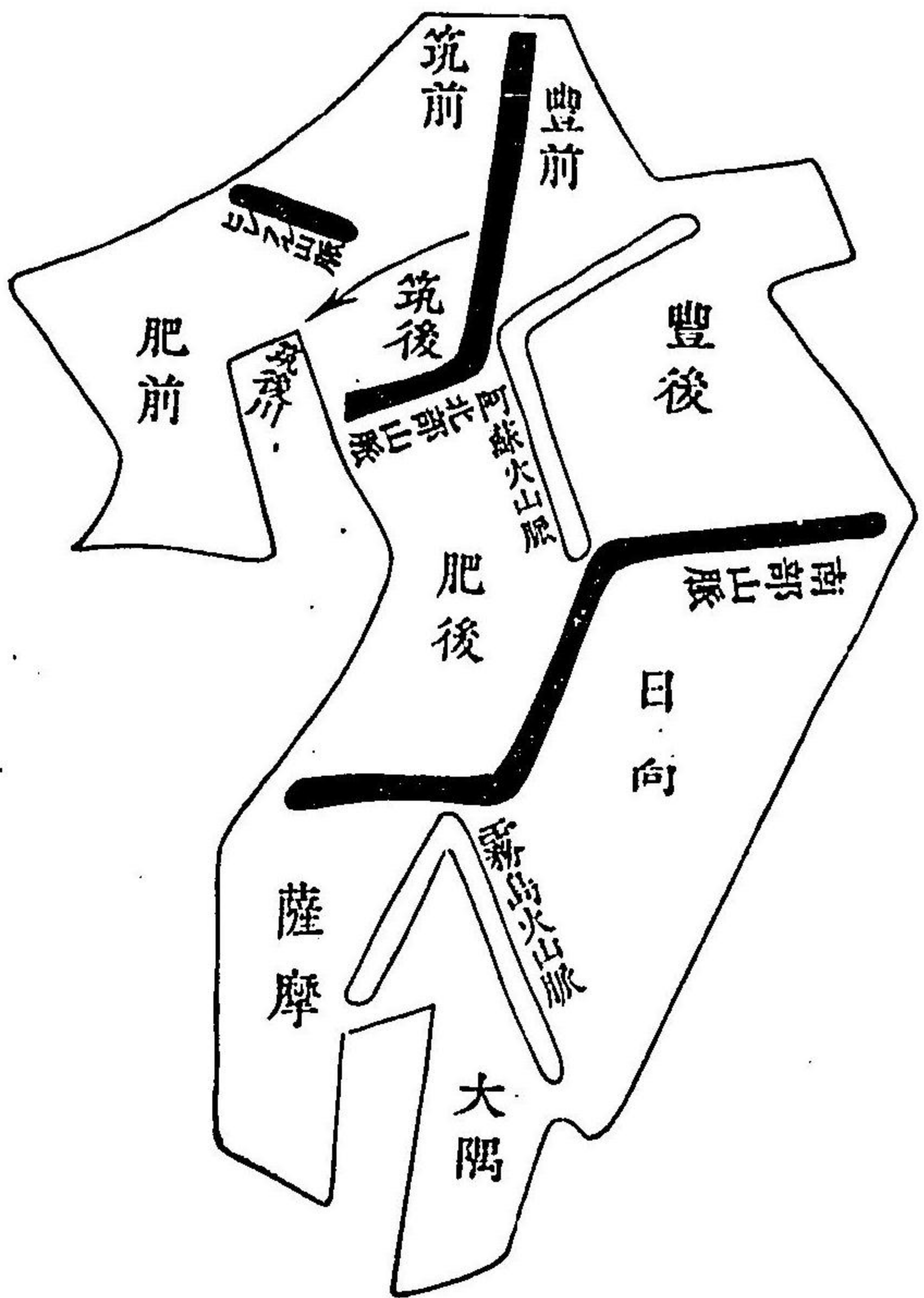
琉球ハ沖繩群島、先島群島ノ二群島ヨリ成レリ。其ノ沖繩群島ハ直チニ輿論島ニ接シ、沖繩島ヲ以テ主島トス。沖繩島ハ細長キ島ニシテ、山脈之ヲ貫キ平地甚ダ少シ。島ノ南部ナル那覇港ハ開港場ノ一ニシテ、沖繩縣廳此ニアリ、鹿兒島ヨリ大島ヲ經テ四百海里ナリ。有名ナル薩摩、絣及ビ上布ハ多ク那覇ヨリ出デ、其ノ他琉球、紬

ノ王城地ナリ。先島群島ハ宮古列島ト八重山群島トヨリ成レリ。

地味ハ一般ニ瘠セ、國人多ク甘藷ヲ常食トス、サレバ甘藷ヲ亦『りうきういも』トモ稱セリ。甘藷ニモ適セザルノ地ニハ蘇鐵ヲ植エテ其ノ幹ヲ食フ。地形狹小ニシテ深山大澤ナキ故、熱國ナレドモ猛獸棲息セズ、唯飯ヒ傭ト稱スル毒蛇アリテ人ヲ害ス。言語風俗ハ元來本土ト大同小異ナリシガ、置縣以來專ラ普通教育ヲ施サルル故、風化日ニ新ナルベシ。人情ハ極メテ溫順ナリ、交通益開ケ、見聞日ニ多カラシニハ其ノ狹固ナル者應ニ面目ヲ變ズルニ至ルベシ。

**西海道概要** 西海道ノ重ナル部分ハ九州ニシテ、其ノ大サ北海道本島ニ半シ、四國ニ二倍ス。既ニ云ヘル如ク九州

諸國ハ地勢簡單ナレド、山脈ハ複雑ナリ、今略圖ヲ以テ國界ノ山河ヲ示サバ、大凡圖ノ如クナルベシ。氣候ハ北海岸ノ各地及ビ壹岐、對馬即チ日本海ノ西北風ヲ受クル地ヲ除キテハ、皆溫暖ニシテ、年中霜雪ヲ見ルコト罕ナリ。然レドモ其ノ南國ナル割合ニハ夏季ノ溫度甚ダ高カラズ、若シ一日ノ最高度ヲ比較セバ、或ハ中國



北國ヨリ低キコトアルベシト雖モ、唯其ノ時限甚ダ長ク、一日ニシテハ高度夜ニ亘リ、一年ニシテハ六月ヨリ九月ニ持續ス。故ニ暑氣凌ギ難ク、平均溫度亦高シ、琉球ハ更ニ二百里ノ南ニアリト雖モ、小島國ノ性質トシテ、暑氣サノミ酷烈ナラズ、九州ノ最高九十六七度ニ及ベドモ、琉球ノ最高ハ九十五六度ノミ。然レドモ琉球ハ殆ト四季ノ別ナク、唯寒暖ノ二季アリ、隨テ暑氣ノ持續長ク、平均溫度稍九州ヨリ高シ。風及ビ雨一般ニ多ク、殊ニ二百十日前後ノ颶風ノ中心ハ、常ニ南洋ヨリ本道ヲ經、北東ニ向ツテ進行ス。農産ハ肥後米ヲ第一トシ、大隅、薩摩ノ煙草等有名ナリ、其ノ他砂糖、藍柑橘類ノ善ク成育スルコト、南海道ニ同シ。竹モ亦暖國ニ適スルガ故、薩、隅地方ニハ往往周圍三尺ノ者ヲ見ル。茶ハ

自然生  
ノ茶

未ダ名産ノ聞ユル者アラズト雖モ、到ル處自然生ノ茶樹アルヲ以テ其ノ適地タルヲ知ルベシ。日向ニハ近來珈琲、幾那等熱國植物ヲ試植セリ。礦産ニハ黄金、石炭實ニ全國一ニノ産額ナリ。工業品ハ有田ノ陶器ヲ最トシ、薩摩燒、小倉織、博多織、薩摩絁、薩摩上布、大島紬、琉球紬等皆特絶ノ者ナレド、薩摩製品、大島紬等ハ人工ヲ要スルコト甚ダシク、産額割合ニ少シ。水産ニハ薩摩節及ビ長崎製品アリ。總ベテ九州ハ石炭ノ自由、工費ノ低廉、其ノ他種種ノ點ヨリ將來工業地トシテ甚ダ有望ナリト云フ。人情ハ一般ニ剛直、素樸ニシテ薩、隅ノ人最モ慍悍ナリ。

工業地

第十二章 臺灣及ビ澎湖列島

臺灣及ビ澎湖ハ、戰國ノ頃ヨリ邦人ト支那人ト和蘭人ト

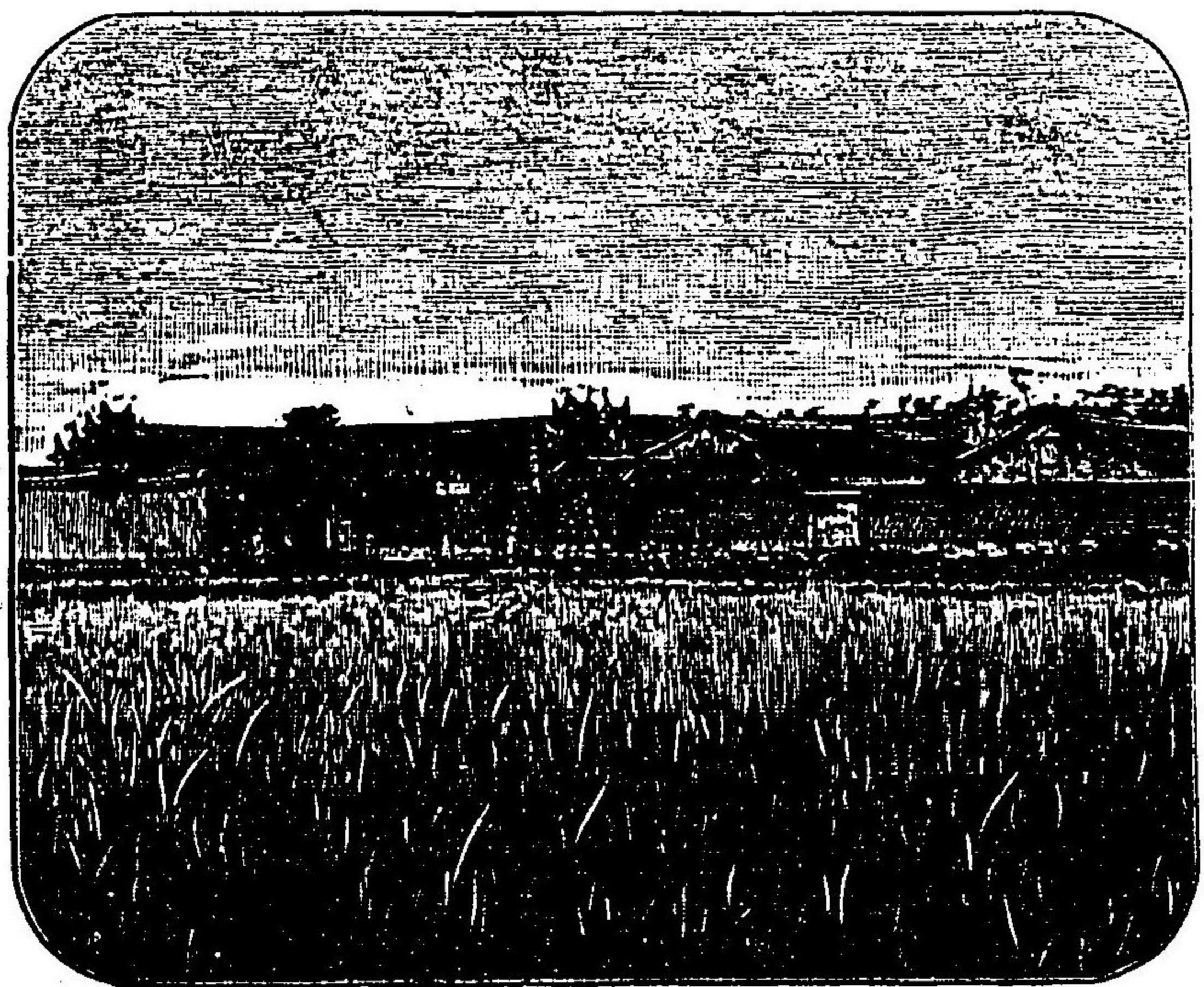
互ニ勢力ヲ競ヒシ地ナリ。而シテ臺灣ノ風景鬱蒼トシテ白波ノ間ニ立テルヲ以テ洋人ハ美島ノ義ヲ以テふれるもさと名ツケ邦人ハ之ヲ高砂ト美稱セリ。斯クテ後我ハ久シク海外ト絶縁シ支那人專ラ此ニ殖民シ遂ニ支那版圖ノ姿トナリ我ハ唯玉砂糖ノ名ニ臺灣ヲ識ルノミナリキ。明治七年臺灣征討ノ事アリ爾時支那ハ金ヲ我ニ納レテ事寢ミニシガ二十七八年ノ役ニ支那ハ媾和條件ノ一トシテ臺灣澎湖ヲ我ニ割讓セリ。

臺灣ハ琉球ノ西南ニ位シ臺灣海峽ヲ隔テテ支那ノ南部ト相對シ長崎ヨリ西南ノ方三百里ニアリ。其ノ形南北ニ長ク面積ハ大凡九州ト同シクシテ稍小ナリ。新高山山脈新高山山脈中央ヲ縱貫シ地勢ヲ東西二部ニ分テリ。西部ハ肥沃ナル

新高山山脈

平地ニシテ支那人及ビ本土人等ノ移住營業スル所ナリ。東部ハ一帶ニ深山幽谷ニシテ山勢直チニ海岸ニ迫リ北部ノ絕壁高サ六千尺ニ至リ世界有名ノ峻岸ニシテ其ノ良港ナキ固ヨリ言ヲ俟タズ。而モ其ノ住民ハ本島固有ノ土人所謂生蕃ニシテ蒙昧殘忍嘗テ琉球人ヲ殺シテ我が討伐ヲ蒙リシ牡丹社牡丹社ノ如キ者十餘社アリ文字ナク教育ナク胸當膝掛及ビ獸皮ノ外套ヲ著シ獸獵ヲ以テ生活スル外間牧畜耕作等ヲナス者アリ。何レモ皆支那人ヲ視ルコト仇敵ノ如ク多ク其ノ頭顱ヲ得ルヲ以テ名譽トセリ。土人ノ稍開化シタル者ハ出デテ支那人等ト共ニ業ヲ營ム之ヲ熟蕃ト稱ス。サレバ東部ハ目下殆ト未知ニ屬シ地理ノ語ルベキ者ハ唯西部ノミ今左ニ概要ヲ述ベン。

臺灣ノ北端ニ半圓形ノ半島アリ、其ノ突角ヲ富貴角ト云フ。半島中ノ大屯山ハ消火山ニシテ、霧島火山脈ニ屬ス、其レヨリ東岸ニ回レバ金包里アリ、黄金ヲ産ス、更ニ東シテ半圓ノ頸ニ至レバ基隆港アリ、本土ノ人上陸ノ要港ニシテ、多ク臺灣炭ヲ輸出ス、即チ此ノ附近ニ産スル石炭



臺北

ナリ。臺灣鐵道即チ基隆ヨリ起リテ南北ヲ縦貫スベキ者、未ダ成ラズト雖モ、既成ノ輕便鐵道線路ニ隨ヒテ説クベシ。基隆ヨリ半圓形ノ後面ナル臺北ニ至ル。臺北ニハ臺北縣廳アリテ北部ノ一縣ヲ管シ、又總督府アリテ全島ヲ統轄ス。淡水河其ノ西ヲ流レテ半圓ノ西頸ナル淡水港ニ入ル、長サ二十里ニシテ實ニ全島第一ノ大河タリ。總シテ臺灣ハ河流皆短小ナルヲ以テ淡水ノ外ハ河ト云ハズシテ溪ト云フ。淡水河ノ流域ハ嘗テ近衛師團ガ土匪征討ニ最モ苦戰セシ所ナリ、此ノ河ノ附近ハ良田多ク、一年二度ノ收穫アリ、南部ニ至リテハ收穫三度ニ至ル、蓋シ熱國ニシテ植物ノ成育盛ナルニヨル。淡水河畔ニハ亦大稻埕アリテ製茶ノ業盛ンナリ。茶ハ臺灣輸出物中最高價額ヲ占ムル産物

ニシテ皆歐米ノ需用ニ供ス、其ノ栽培所ハ重ニ北部ノ高地ナリ。

新竹

臺北ヨリ新竹ヲ經テ臺灣(市街ノ名)ニ至ル間ノ山入りニ苗栗アリ、是臺灣主要ノ産物ナル樟腦産地ノ一ナリ。大抵

臺中

樟樹ハ東部山地ニ多シ。臺中ニハ臺中縣廳アリテ中部ヲ管ス。其ヨリ彰化アリ、嘉義アリ。新高山遙カニ嘉義ノ東

新高山

ニ立チテ本土ノ富士ヨリ稍高ク、俗ニ臺灣富士ト稱ス。此

ノ山本邦ノ最高峯ニシテ、支那人ハ玉山ト呼ビ、洋人ハもり

そん山ト云ヒシガ、三十年八月勅シテ名ヲ新高山ト賜ヒキ。

此ノ山大凡北緯二十三度半ニアリ、是ヨリ南ハ熱帶ニ入ル。

臺南

臺南ニ至レバ臺南縣廳アリ、西南部ヲ管ス。昔蘭人ノ築キシ紅毛城アリ。臺南ノ西ニ安平港アリ、亦蘭人ノ古城ア

鳳山

リ、濱田彌兵衛ノ事、其ノ他外國交渉事件ハ、大抵此ニ起レリ。

臺南ヨリ鳳山ニ至レバ製糖

甚ダ盛ンナリ。總ベテ製糖ハ

南部ノ沿岸地方ニ多シ。鳳山

ノ西ニ打狗港アリ、縦貫鐵道ノ

南端ナリ。島ノ南端ナル恒春

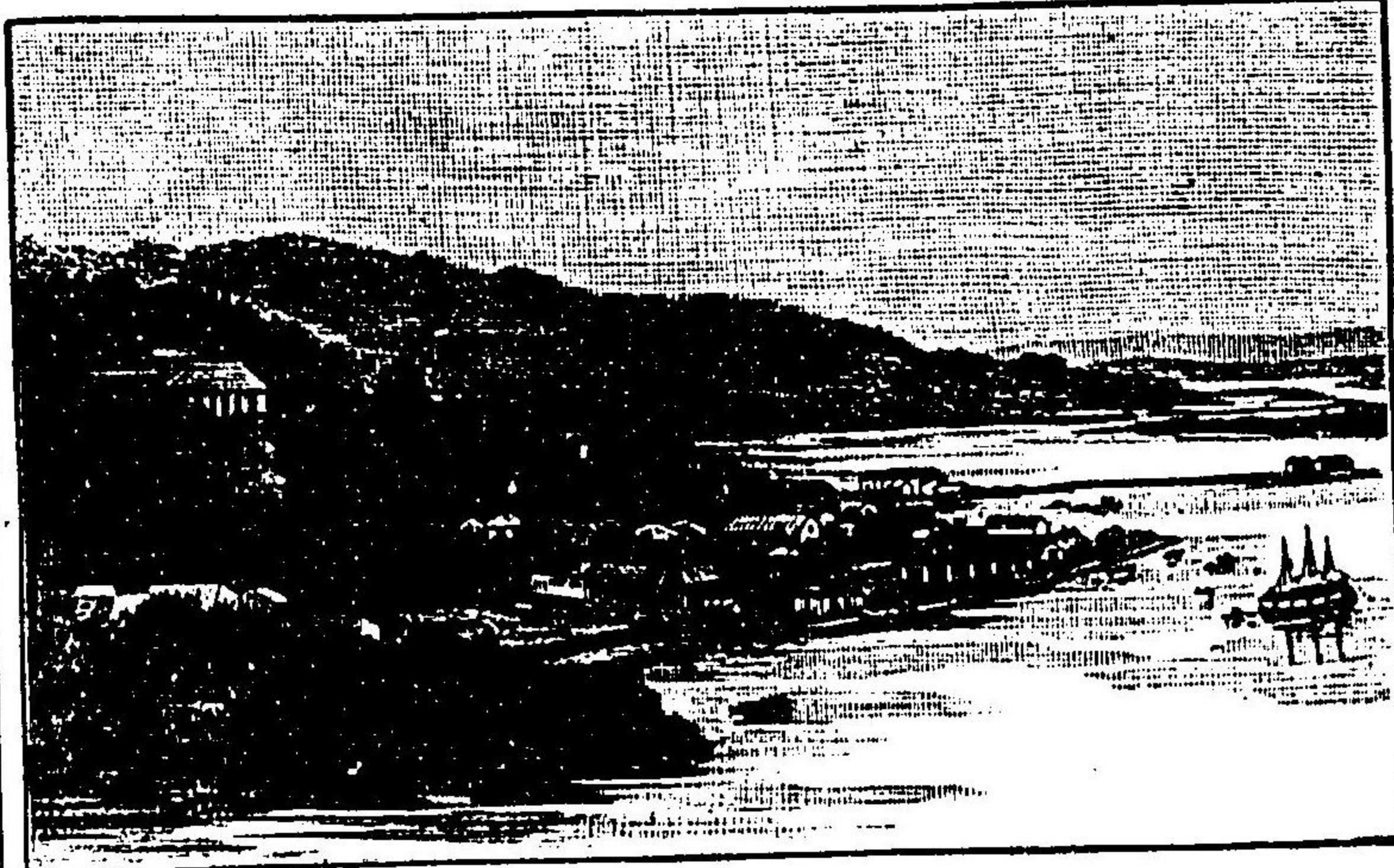
港ニハ恒春廳アリ、最南ノ半島部

ヲ管ス。

澎湖列島ハ臺灣ト支那トノ

間ニアリテ、澎湖ヲ主島トシ、漁

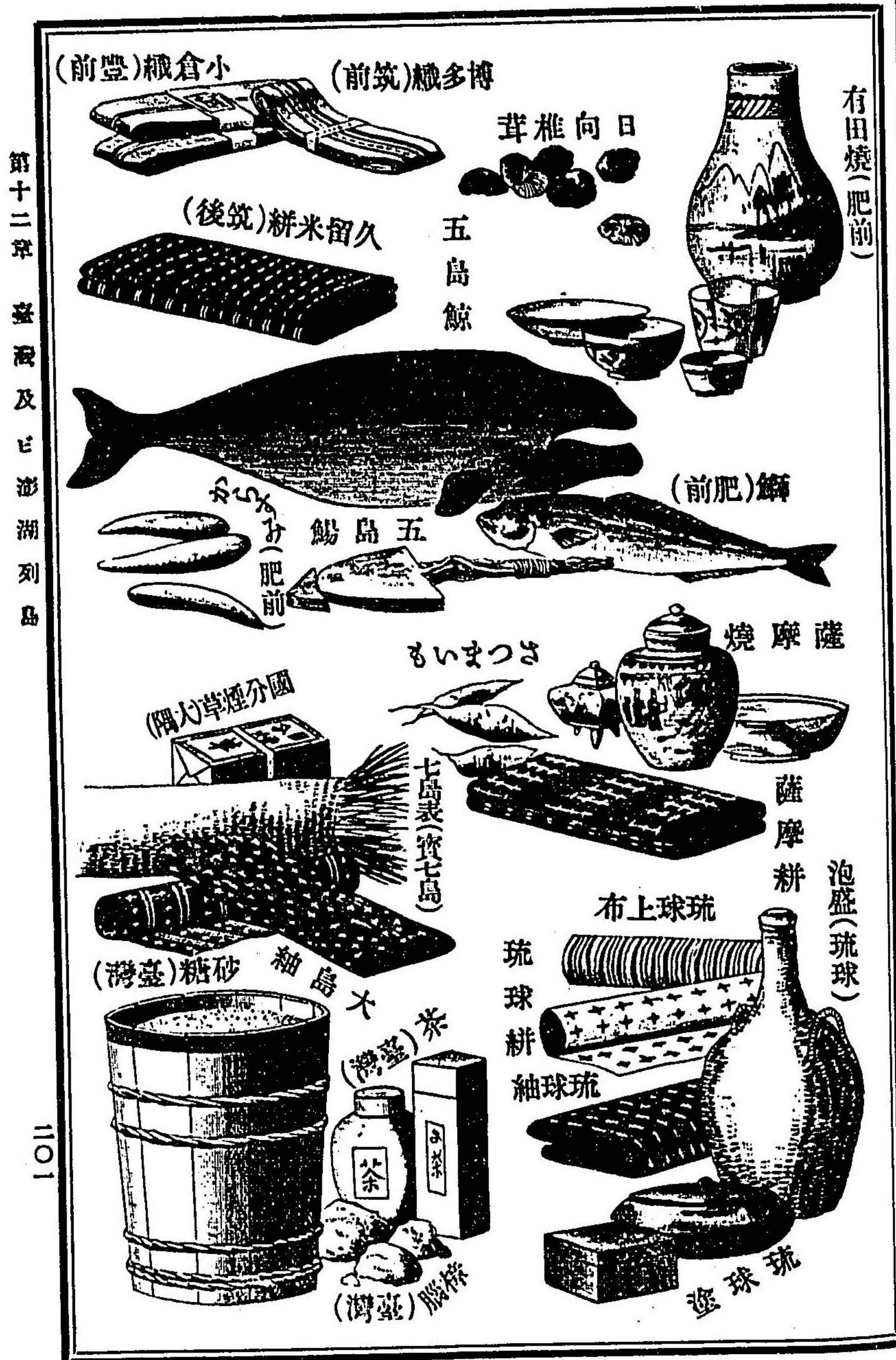
翁島、白沙島ト共ニ巴ノ狀ヲ成



恒春

セリ。

臺灣諸島ハ吾ガ版圖ノ最南ニシテ、最モ熱キ國ナリ。其ノ冬ノ氣候ハ恰モ東京ノ春ノ如ク、夏ハ九州、琉球ヨリモ熱ク、時トシテハ百十度ニ至ルコトアリ、然レドモ夜ハ温度大ニ下リテ涼氣人ヲ襲フ。雨ハ一般ニ多量ニシテ晴雨二季節アリ、大抵夏期ヲ雨節トス。大抵春夏秋冬ナクシテ唯晴季雨季アルハ熱帶地方ノ常ナリ。風亦強クシテ沿海風浪多ク、二百十日前後ノ暴風ハ、大抵本島ノ近海ニ起ル。熱國ナレドモ毒蛇猛獸少ク、唯野獸ニ豹アリ、農用動物ニ水牛アルヲ本土ニ異ナリトス。然レドモ支那種族ノ亂民所謂土匪ナル者未ダ滅絕ニ至ラズ、其ノ良民ヲ害スルコト毒蛇猛獸ヨリ甚シク、内地ヨリハ守備隊ヲ發シ、近頃又土民ヲ募リ





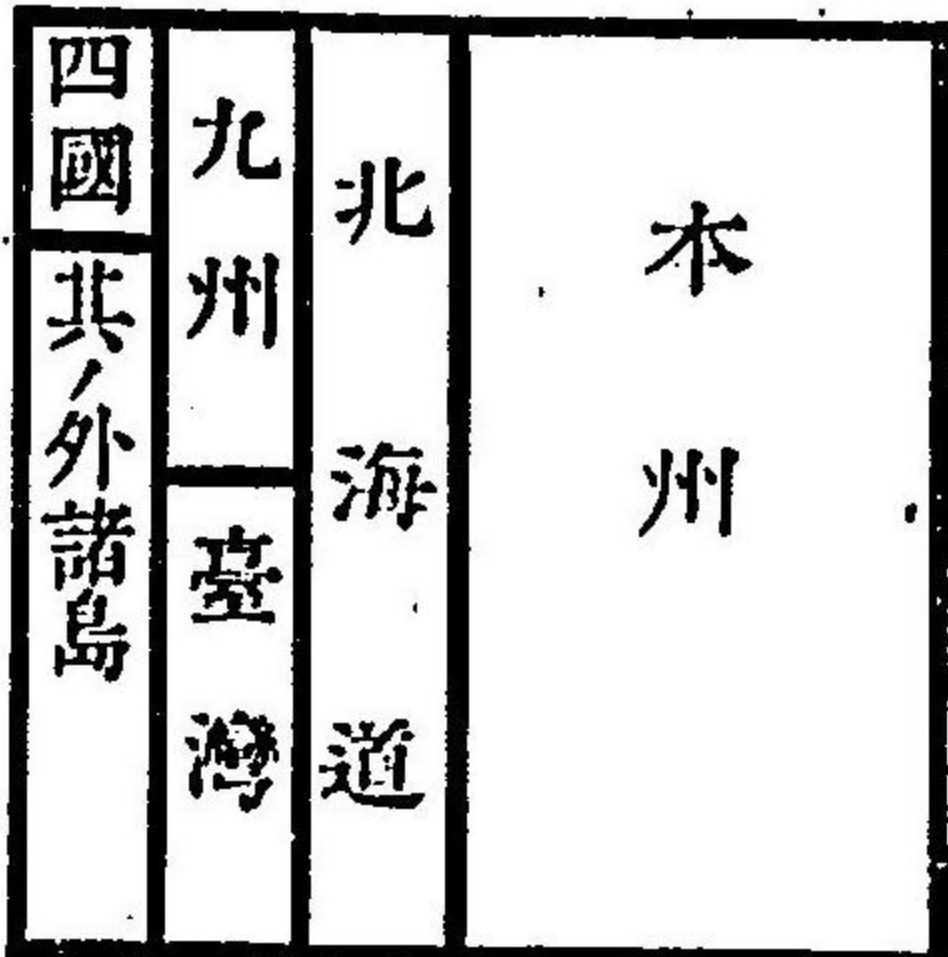
テ護郷大隊ヲ組織セリ。

### 第十三章 地勢交通ノ概要

廣袤

地勢 上來叙述セシ我ガ帝國ハ五畿八道八十四箇國、琉球及ビ臺灣ニシテ、大小ノ島嶼總ベテ六百兩端ノ直徑一千三百里、海岸線七千五百里、面積二萬七千方里、即チ百六十里四方許リ、人口四千餘萬ニシテ、世界中

島嶼最モ多ク、海岸屈曲最モ多キ國ノ一ナリ。海岸ノ屈曲多ク、港灣多キハ、交通自在ニシテ文明ノ進歩ニ適スル地勢ナリ。本州ノ面積ハ大凡全國ノ半ニ居リ、北海道ハ本州ノ三分一、九州ト臺灣トハ北海道ノ半、



百六十餘里

四ノ一ナリ

山勢

國ハ又其ノ半ニシテ大凡圖ノ如シ。

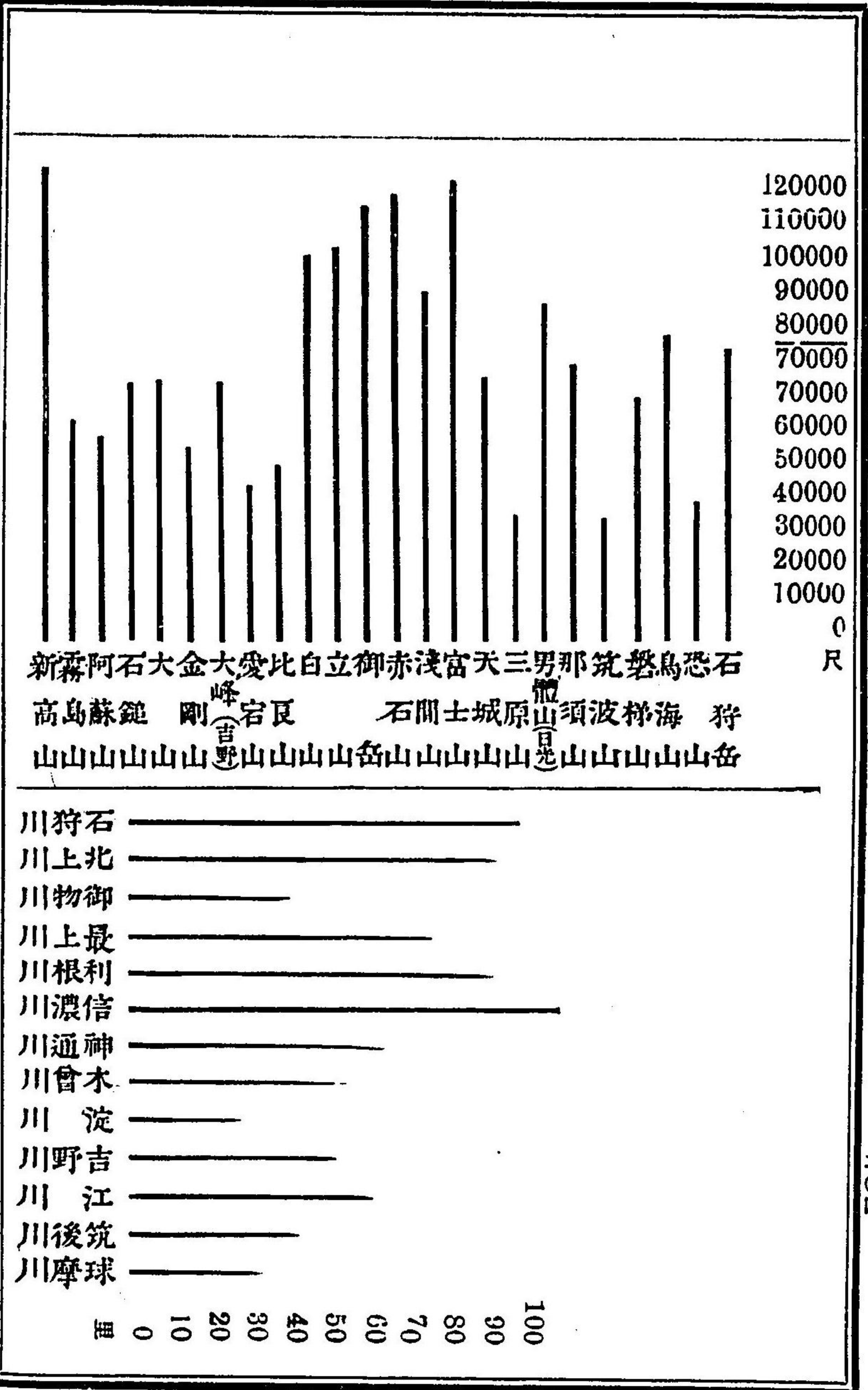
今地勢ノ大要ヲ概括セン。富士帶ハ本州ヲ横斷シテ南北ニ區分シ、其ノ他ハ天鹽岳山脈ノ外、大抵縦ノ方向ヲ取レリ。富士帶以北ニハ中央火山脈及ビ千島火山脈相繼ギテ脊梁ヲナシ、北上阿武隈、鳥海、彌彦ノ諸山脈、中央火山脈ニ並行ス。富士帶以南ニ在リテハ、信濃、飛驒ハ諸山脈ノ集マル所ニシテ、其ノ最モ長キ者ハ、第一中國山脈アリ、本州ヲ貫通シ、海ヲ渡リテ九州ノ北部山脈トナル、第二、赤石山脈ハ紀伊山脈トナリ、四國山脈トナリ、九州ノ南部山脈トナル。阿蘇、白山、隱岐等ノ山脈大凡之ニ並行ス。霧島火山脈ハ最モ南ニアリテ、薩南諸島ヲ經テ臺灣ニ至ル。是山脈ノ大勢ニシテ、其ノ著明ナル諸山ノ高低比較大凡圖ノ如シ。

河野流平  
野都邑

街道

是等ノ諸山脈ノ間ニ各溪谷ヲ成シ、溪谷ノ廣キハ即チ平野ニシテ、大平野ニハ長流大河流通シテ運漕灌漑ノ用ヲナシ、流域ニ都府アリテ交通ノ中心トナル。此ノ都府ハ港口ニアリテ海路輸出入ノ口トナルコトアリ、或ハ別ニ港口ヲ要スルコトアリ。例ヘバ畿内平野ニハ淀川流レテ、京都、大阪ノ二府アリ、港口ニハ大阪、神戸アリ。次ニ濃尾平野ニハ木曾川流レテ、都府ニハ名古屋アリ、港口ニハ四日市アリ。關東平野ニ至リテハ、利根川、荒川等流通シテ、東京アリ、横濱アリ、其ノ他大小ノ市邑皆沿海或ハ河域ニ在ルヲ常トス。

**交通** 交通ハ湖海ノ沿岸、河川ノ流域、或ハ溪谷、高原等ノ平地ニ起ル者ニシテ各島ノ街道ハ皆海岸地方ヲ一周セリ。本州ニアリテハ、畿内ノ街道ハ河域及ビ海岸ニアリ、山陽山



## 鐵道

陰、東海、北陸ノ街道ハ何レモ海岸ヲ通り、東山道ハ琵琶湖沿岸、木曾川、利根川、阿武隈川、北上川ノ諸流域、陸奥海岸、御物川、最上川ノ流域ヲ通過セリ。東京ハ全國ノ中心ニシテ亦東國ノ中心タリ、大阪ハ西國ノ中心タリ、故ニ交通ノ路ハ此ノ兩地ヲ中心トシテ四方ニ向ヘリ。

鐵道ハ已ニ是等街道ノ最モ急要ナル者ニ敷設セラレタリ。本州ニ於テハ馬關ヨリ三府ヲ通過シテ青森ニ至ル縦貫線已ニ全通セリ。日本海岸ハ北陸道ノ大部分既ニ通ゼリ。太平洋ト日本海トノ間ハ、最モ幅ノ廣キ處ニ於テ東京ト直江津ト連絡シ、最モ狹キ處ニ於テ敦賀ト四日市ト聯絡セリ、阪鶴鐵道、播但鐵道、岡山米子間等亦漸ク全通スベシ。以上ヲ主要ナル線路トス。其ノ他九州ト臺灣トハ縦貫線

早晚ニ通ズベク、北海道本島ト四國トノ局部モ漸漸擴張スベシ。三十四年ノ初メ既成線總計已ニ四千哩ニ近シ。

電信ハ鐵道線路ノ及ブ所ハ勿論、遍ク全國緊要ノ市邑ニ架設セラレ、郵便ハ更ニ僻地ノ村里ニマデ及ベリ。大凡郵便電信局一千所、郵便局取扱所ト共ニ三千所、電信線路五千里、線條ノ延長ハ其ノ三倍餘ナリ。電話ハ京、濱、阪、神等ノ市内ノ外、長距離ノ者ハ東京、大阪及ビ神戸間ニ架設セラレタリ。海底電信線ハ國內諸島ノ連絡ノ外、長崎ヨリ上海、釜山浦及ビ浦潮斯德ニ通シ、臺灣ヨリ支那ノ福州ニ通ゼリ。

次ニ海路ノ交通ヲ説カン。海運業者ノ重ナル者ハ日本郵船株式會社及ビ大阪商船株式會社等ニシテ前者ハ汽船百餘艘ヲ所有シ、後者ハ同五十餘艘ヲ所有セリ。其ノ他東

洋汽船株式會社アリ。

郵船株式會社ノ航路ノ重ナル者ハ、マツ横濱ヨリ四日市及ビ神戸ニ航スル者、即チ關東平野ト濃尾平野ト畿内平野トヲ連絡スル者ナリ。次ニ本州ヲ一周スル者ニシテ、『西廻リ』ハ横濱ヨリ神戸、馬關ヲ經テ、日本海ノ諸要港ニ寄り、函館、小樽ニ至ル者、『東廻リ』ハ神戸ヨリ横濱、荻濱、函館、小樽ニ航スル者ナリ。此ノ外小笠原島線、臺灣線等アリ。

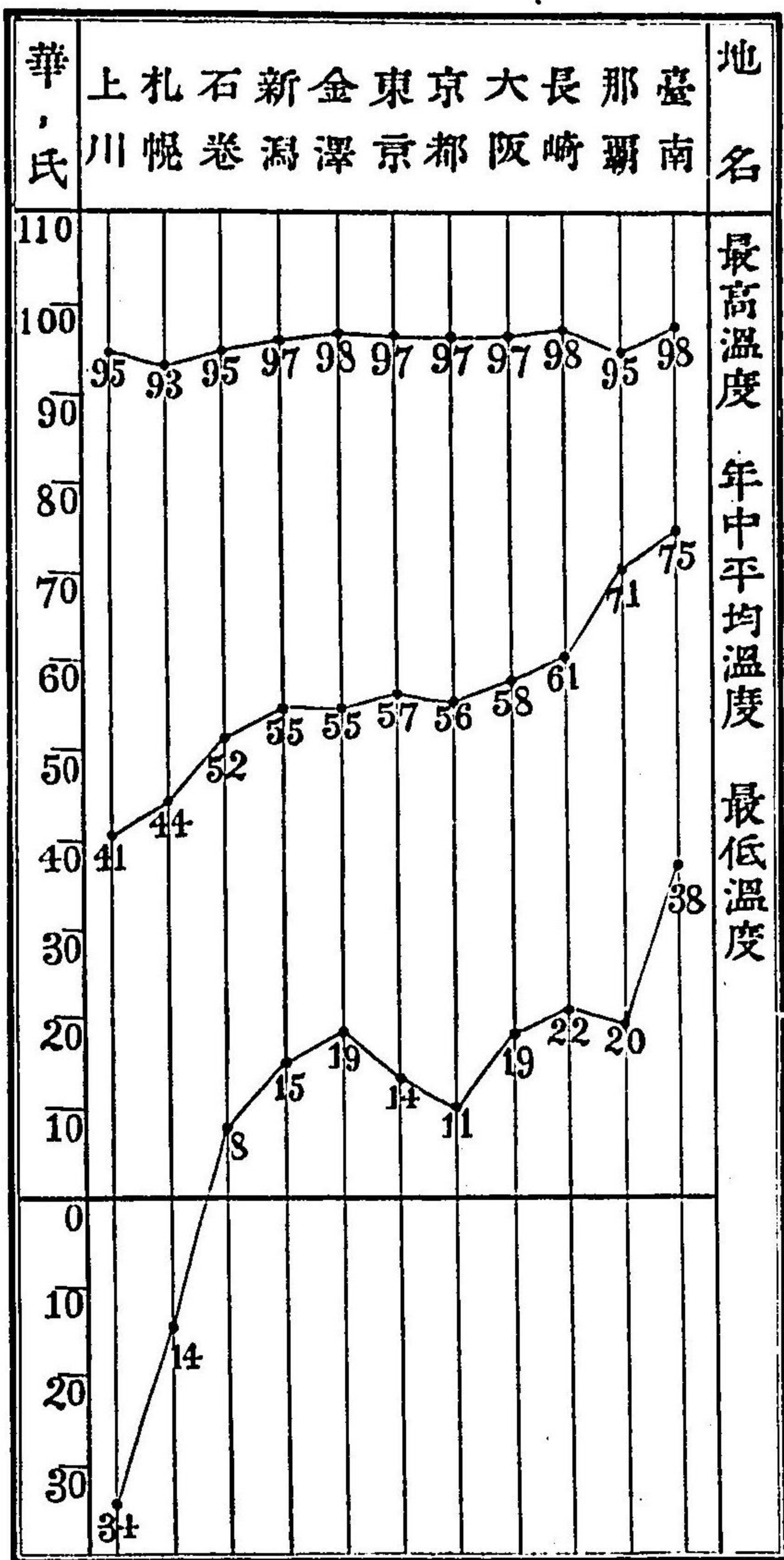
同社ノ外國航路ハ西方航路ト東方航路トアリ。西方航路ハ横濱ヨリ神戸ヲ經、瀬戸内海、玄界灘ヲ過ギテ長崎ニ達シ、其ヨリ浦潮斯德、釜山、仁川、天津、上海、或ハ歐洲、又ハ濠洲等ニ至ル諸線路アリ。東方航路ハ横濱ヨリ直ニ北亞米利加ニ至ルモノナリ。

大阪ハ陸路ノ交通ノミナラズ、海路ニ於テモ亦關西ノ中心タリ。サレバ商船株式會社モ亦大阪ヲ中心トシテ山陰、山陽、南海、西海四道ノ諸港ニ往來シ、又清、韓ノ航路ヲモ開ケリ。此ノ外新潟、函館ヨリ樺太及ビ浦潮斯德ニ至ル新航路アリ。

### 第十四章 氣候產物等ノ概要

温度

氣候 本邦ハ西南ト東北トハ温度ノ差甚ダ大ナレド、幸ニ島國ナルト潮流ノ故トヲ以テ、寒暖ノ差緯度ノ割合ニ大ナラズ。全國年中ノ平均ハ五十四度半ニシテ、東京、京都ノ平均ヨリ稍低ク、金澤、新潟ノ平均ニ大凡同シ。今同溫線地圖ノ外、猶著明ナル地點ノ温度ヲ示スベシ。其ノ最高最低ハ測候所設立以來ノ極點ニシテ、通常ハ上川ノ一月二月ノ溫



度ハ十三四度ノ間ニアリ。  
然レトモ又本邦ハ細長クシテ、西北ニ大陸ヲ控ヘ、東南ニ

風雨

大洋ヲ受クルヲ以テ、其ノ風雨ハ大陸大洋ノ關係ニ感ズル  
コト甚ダ大ナリ。即チ夏期大陸甚ダシク熱シ空氣稀薄ト  
ナル時ハ、大洋ノ東南風之ヲ補充ス、此ノ時本邦ハ多ク東南  
風ヲ受ケ、其ノ水蒸氣ハ沿岸山脈ノ爲メニ冷却セララル故  
ニ、太平洋沿岸諸國ニ雨多クシテ、日本海岸諸國ニ少シ。之  
ニ反シテ冬季ハ大陸ノ寒氣甚ダシク、大洋ハ依然トシテ暖  
カナルガ故ニ、西北風大陸ヨリ送ラル、此ノ時日本海岸ニ雨  
雪多クシテ、太平洋岸ニ晴天多シ。此ノ二方面ノ雨ヲ避ケ  
テ雨雪ノ少キハ、二方面ノ山脈間即チ瀬戸内海地方、信州地  
方等ナルコト已ニ云ヘリ。臺灣ニ晴雨二季節アルモ全ク  
同理ニシテ、即チ西南風ノ季節ハ、中央山脈以西ノ雨節ナリ、  
東北風ノ季節ハ之ニ反ス。

氣象區

毎年三月及び九月即チ舊曆ノ『二月』チ『あれづき』ト云ヒ、殊ニ二百十日前後ニ暴風アルハ、此ノ寒風、暖風交換ノ時ニシテ空氣ノ濃淡即チ氣壓常チ失スレバナリ。暴風ノ中心ハ大抵臺灣沖ヨリ西南諸道ヲ經、本州ヲ中斷シ、日本海ヨリ北海道ヲ通過シテ東ニ走ル。又梅雨トテ六月頃大凡三十日間ノ霖雨アルハ、遙カニ西南印度洋ニ於テ吹ク所ノ定時風ノ餘波ニシテ、此ノ風ハ極メテ濕氣ヲ含ムガ故ナリ。

風雨寒暑ハ山岳ノ向背、海洋ノ位置等ニ因リテ異ナルヲ以テ、氣象區ヲ七區ニ分チ、東京中央氣象臺ハ毎日各區ノ測候所ヨリ電報スル風位、氣壓、溫度等ニ據リ、各區ノ天氣ヲ豫報シ、又暴風等ヲ警戒ス。第一區ハ南海岸ニシテ最モ多ク、黒潮ノ影響ヲ受ケ、雨量最モ多キ地方ナリ、即チ琉球ヨリ九

植物分布

州四國ノ南岸ヲ經テ紀伊ノ鼻ニ至ル。第二區ハ瀬戸内海地方ニシテ、最モ少雨ノ地方ナリ。第三區ハ西北海岸ニシテ、九州ノ西北諸國及び山陰道ナリ。第四區ハ東南岸ニシテ、紀伊ノ鼻ヨリ銚子ノ鼻ニ至ル各地及び其ノ内地ナリ。第五區ハ大陸風ヲ正面ニ受クル地ニシテ、北陸、兩羽及び其ノ内地ナリ。第六區ハ親潮地方ニシテ、銚子以北ノ海岸及び其ノ内地ナリ。第七區ハ極北地方ニシテ、北海道及び陸奥海岸ナリ。而シテ臺灣ハ別區トス。

動植物ノ分布 本邦ニハ寒國アリ、暖國アリ、熱國アリ、隨テ動植物亦同シカラズ。先ヅ植物ヲ例スレバ、已ニ各國ノ條ニ明カナル如ク、茶、煙草、藍、柑橘類、竹、蘇鐵、甘蔗、樟、鳳梨等ハ暖國乃至熱國ノ植物ニシテ、寒國ニ適セズ。竹ノ如キハ薩隅

植物帶

地方ニ於テ周圍三尺ニ及ブ者アレドモ、北海道ニ於テハ殆  
 ド全ク之ヲ生ゼズ、間葦ノ如キ小ナル者ヲ見ルノミ。又柑  
 橘類ハ東海岸ニ於テ伊豆、駿河ノ産ハ食フベキモ、東京ニ至  
 レバ已ニ食フニ堪ヘズ。一般ニ熱國、暖國ハ植物ノ成育宜  
 シト雖モ、特ニ寒地ニ適スル者亦アリ、例ヘバ露ハ千島ニ於  
 テ野生ノ者林ヲ成シ、秋田ニ於テハ培養ノ功ヲ以テ椀大ノ  
 莖ヲ成セドモ、新潟以南ニ於テハ纔ニ拇ノ大キサニ過ギズ。  
 林檎ハ北海道ニ於テ最モ美ニシテ、本州ニ至レバ漸ク劣ル  
 ナ覺ユ。今植物ノ分布ヲ簡畧ニ示ストキハ左ノ如シ。(一)  
 小笠原島及ビ琉球以南ヲ熱帶植物帶トシ、蘇鐵、樟、椰子、鳳梨  
 等繁茂シ、甘蔗、綿、煙草、稻、藍等盛ニ發育ス。(二)九州、四國及  
 ビ本州南半ヲ半熱帶植物帶トシ、常綠木多ク、檜、黑松、榎、樟、竹

動物分

等繁茂シ、甘蔗、烟草、藍、稻、麥、綿、茶、柑橘類栽培セララル。(三)本州  
 北半乃至北海道中部ヲ溫帶植物帶トシ、落葉木多ク、赤松、檜  
 櫟、栗等繁茂シ、前帶ニ等シキ作物猶移植セラレドモ、甘蔗、  
 茶、烟草、綿ノ如キハ陸奥ニ至リテ殆ト跡ヲ絶テリ。(四)北海  
 道、東北部及ビ千島ヲ冷帶植物帶トシ、梅、五葉松等ノ區域ニ  
 シテ森林漸ク少ク、稻ハ生育セズ。又南部ト雖モ、高地ハ寒  
 冷ナルヲ以テ寒地ノ植物ヲ生ズ、例ヘバ富士山ニテハ麓ニ  
 ハ半熱帶植物アルモ、中腹ヨリ溫帶、冷帶ノ植物ヲ生シ、頂上  
 ニ於テハ更ニ草木ヲ生ゼザルニ至ル。又古クヨリ開ケタ  
 ル地方ニ於テハ固有ノ森林伐リ盡サレ、他帶ノ植物人工ニ  
 由リテ繁殖スルコト多シ。

動物ニ至リテハ殊ニ判然タル區域ナシト雖モ、大凡暖國

農産

産ノ著シキ者ハ、四國猿ニシテ、寒國産ハ千鳥ノ獵虎、温牖獸  
 海豹等ナリ。魚類ニハ鱈、鰺、鰯等暖流ニ生活シテ、鮭、鱈、鯡ノ  
 如キハ寒流ニ生活ス。熊、狼ハ本州北部ノ山岳ニ棲息シ、北  
 海道ニハ熊多シ。大凡猛獸毒蛇ハ熱國ニ多キ者ナレド、本  
 邦ニアリテハ琉球ノ飯七、臺灣ノ豹ニ過ギズ。此クノ如  
 ク、寒暑ハ文明ノ發達ヲ害スルニ至ラズ、毒蛇、猛獸ハ人類ノ  
 生活ヲ危クスルニ至ラズシテ、而モ寒暖各地ノ産物種種ナ  
 ルハ、實ニ世界屈指ノ樂土ト謂フベシ。

**産物** 本邦産業ノ最モ主要ナル者ヲ農業トシ、米ノ産地ハ  
 筑紫平野、濃尾平野、關東、越後等ノ諸平野ヲ主要ナル者トス、  
 一國ノ産額最モ大ナルヲ越後トシ、一反ノ收穫最モ多キヲ  
 大阪府下トシ、質ノ最モ良キヲ肥後トス。麥ノ産額最モ多

林業

キハ關東平野ニシテ、次ハ濃尾平野ナリ。全國ノ産額ヲ舉  
 グレバ、米ハ大凡四千萬石ニシテ、全國一人一石弱ニ當リ、麥  
 ハ大凡其ノ半ナリ。大豆モ亦關東平野ニ最モ多ク産ス。  
 茶ノ多額ハ駿遠即チ静岡縣ヲ第一トシ、山城ヲ第二トス、然  
 レドモ玉露製ハ山城ヲ最モ多額トス。其ノ他河内ノ綿、下  
 野ノ麻、阿波ノ藍、皆産額ノ第一ナリ。

**林業**ノ著シキ者ハ東ニ信濃アリ、西ニ紀伊アリ、其ノ他諸  
 國ノ山岳鬱蒼トシテ、山林ノ面積大凡全國ノ半ニ至ル。本  
 邦ハ山岳多クシテ、山林トスルノ外、用フベカラザル地多キ  
 ニモ拘ラズ、木材ニ供スベキ山林割合ニ少ク、土木工事ノ木  
 材ハ外國ヨリ輸入スル者多シ。加之維新以來ハ、林制大ニ  
 弛ミテ、山林ヲ濫伐シ、之ガ爲メ諸國ノ水害年年絶エザルニ



牧畜

至リ、今正ニ善後策經營中ナリ。  
牧畜ハ近來軍馬、食牛、乳牛、製革等ノ需用ニツレテ、需用ノ  
進歩ニ應ズル能ハザルノ勢アリ。現在ノ頭數ハ、馬ハ薩摩  
ヲ第一トシ、陸中之ニ次ギ、牛ハ山陽道諸國ニ最モ多シ。

水産

水産ノ多額ナルハ、北海道ノ鮭、昆布、房總ノ鱒ナリ。鯉節  
ノ産額ハ、土佐節ヲ最多トシ、銚子節、薩摩節之ニ次グ。

蠶業

蠶業ハ東山道ニ最モ盛ンニシテ、就中繭、生絲ノ産額共ニ  
信濃ヲ第一トス。

鑛産

鑛産ハ佐渡、薩摩ノ黄金、羽後ノ銀、下野、伊豫ノ銅、皆全國第  
一及ビ第二ナリ。鐵ハ釜石及ヒ中國ニ産スト雖モ、方今勃  
興セル兵器、鐵路等ノ需用ノ什一ヲモ望ムコト能ハズ、筑前  
ノ製鐵所完成ノ日ハ、蓋シ一步ヲ進ムルコトアルベシ。

工業品

工業品ハ精粗ニヨリテ價格ノ差異甚ダシキヲ以テ、數量  
ト價額トハ必ズシモ比例セズ。今價額ヲ以テ順序スルト  
キハ、絹布ハ京都ヲ第一トシ、上野、下野之ニ次グ（數量順ハ上  
野、下野、京都トス）。綿布ハ尾張、三河即チ愛知縣下（鳴海、絞等）  
ヲ第一トシ、紀伊（綿ねる等）、武藏（二子、縞等）、大阪府下（河内、木綿  
等）之ニ次グ。陶磁器ハ尾張、美濃、肥前、山城、加賀、漆器ハ紀伊、  
能登、紙ハ土佐、伊豫、美濃、駿河、酒類ハ攝津、尾張等各、此ノ順序  
ニ隨フ。繪畫、彫刻、蒔繪等ノ美術品ハ兩京ニ最モ多ク、七寶  
ハ最モ名古屋ニ多シ。

商業地

是等ノ物品集散ノ中心即チ商業地タルベキ所ハ、無論交  
通ノ最モ便利ナル地ニシテ、前章ニ記セル海陸諸線路ニ當  
ル著名ナル市邑是ナリ。又其ノ各地ノ總中心タルベキ地

輸出品

アリ、大阪ハ關西ノ中心、函館ハ北海全道ノ中心、東京ハ全國ノ中心タルガ如キハ其ノ最モ大ナル者ナリ。

輸出入 本邦產物ノ海外ニ輸出スル者ノ中、價額ノ最モ多キ者ハ生絲、綿絲、羽二重、茶ニシテ、茶ハ多ク米國ニ輸出シ、生絲、羽二重ハ多ク米佛ニ、綿絲ハ多ク支那ニ輸出セラル。是等ヲ最モ多額ナル者トシ、陶磁器、漆器、美術品等ハ價額稍少キモ、名聲海外ニ噴噴タル者ナリ。總シテ輸出ノ最モ多キハ米國ナリ。

輸入品

輸入品ノ最モ多額ナルハ第一線綿ニシテ、重ニ支那、印度ヨリ來ル。次ハ白砂糖ニシテ、英領香港ヨリ來リ、次ハ鐵類ニシテ、英國ヨリ來ル者多シ。總シテ輸入ノ最モ多キハ英國ニシテ、米國ノ輸入品ハ年年増加シツツアリ。其ノ他世

人ノ耳目ニ觸ルルコト多キ外國品ハ、佛蘭西皮(靴用)、英ねる、獨逸ねる、伊太利ねる、米國粉(麥粉)、米國露國ノ石油、瑞西時計、支那緞子、支那縮緬等ナリ。

毎年ノ輸出入ハ近頃各二億圓内外ニ上リ、多少輸出ノ超過アリシガ、日清戰役後輸入常ニ超過セリ。

第十五章 政治ノ概要

政體 政體ハ立憲君主政體ニシテ、天皇ハ立法、行法ノ大權ヲ總攬シ、人民ハ憲法ノ定ムル所ニヨリテ參政ノ權ヲ得。

立法部ハ帝國議會ニシテ、貴族院ト衆議院トヨリ成リ、法律、豫算等ヲ審議スル所ナリ。貴族院ハ皇族、華族、勅選議員、多額納稅議員ヨリ成リ、衆議院ハ國民ノ選舉スル所ノ議員ヨリ成ル。議會或ハ政府ヨリ出デタル原案ニシテ議會ニ

立法

行政

可決セラレ、政府ニ同意セラレタル者ハ、天皇ノ裁可ヲ經テ初メテ公布執行セラル。

行法ニハ行政ト司法トアリ。行政部ハ各地ノ便宜ヲ計リ、全國ヲ三府四十三縣、北海道及ビ臺灣ニ分チ、地方廳ヲ設ケ、衛生、勸業、教育、警察、土木、租稅等各般ノ政ヲ行ハシム。之ヲ監督スル中央政府ハ、内外務、陸海軍、大藏、司法、文部、農商務、遞信ノ諸省アリ、又内閣總理大臣及ビ各省ノ大臣ニテ内閣ヲ組織シ、天皇ヲ輔弼シテ行政ノ責ニ任ズ。

司法

司法部ハ全國三百ノ區裁判所アリ、府縣道廳ノ所在地及ビ函館、根室ニ地方裁判所アリテ之ヲ分轄シ、東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、宮城、函館ノ七控訴院又之ヲ分轄シ、中央ニ一ノ大審院アリテ之ヲ總轄セリ。小事ハ區裁判所ヲ初審トシ、

種族

大事ハ地方裁判所ヲ初審トシ、裁判ニ服セザル者ハ各、上級ノ法庭ニ控訴上告スルヲ得。

種族 本邦ノ人口ハ約四千五百萬アリテ現ニ言語風俗ヲ異ニスル者五アリ、(一)本土人即チ所謂「やまと民族」、(二)あいぬ、(三)琉球人、(四)臺灣生蕃、(五)同支那移民是ナリ。風ヲ移シ、俗ヲ易フルハ國ノ統一ニ於テ最モ緊要ノ事ナリト雖モ、聖上慈仁ニシテ新附ノ民ノ不便ヲ憐ミ給ヒ、特ニ臺灣總督ニ勅シテ改革ヲ急劇ニセザランコトヲ戒メ給ヘリ。

教法

教法 本邦、元神儒佛ノ三教アリ、神道ハ國家ノ恩人、自家ノ祖先ヲ神トシ祭リテ其ノ德ヲ紹述シ、儒道ハ修身ノ道ヲ明カニシテ天下國家ニ及シ、佛道ハ惡ヲ遷シテ善トナシ、愆ヲ轉シテ慈悲トナシ、自ラ佛ト成ランコトヲ務ムル教ナリ。

佛教ハ最モ廣ク行ハレ、天台、真言、淨土、禪、真宗、日蓮宗等ヲ重ナル者トス。然レドモ國民トシテ皇祖天神ヲ拜セザル者ハナク、亦學校ニアリテ儒教ノ一斑ヲ聽カザル者ナシ、則チ神儒佛ノ三教一般ニ行ハルト云フモ亦不可ナルナシ。耶蘇教ハ徳川時代ニハ國禁ナリシカド、今ハ憲法ニヨリテ奉教ノ自由ヲ與ヘラレタリ。

## 教育

教育 全國到ル處ノ町村ニ小學校アリテ、國民タルニ必要ナル普通學ヲ授ク。各府縣ニ一箇或ハ數箇ノ中學校アリテ高等ナル普通學ヲ授ク。全國ニ八箇ノ高等學校アリ。則チ兩京、仙臺、金澤、山口、熊本、岡山、鹿兒島ニシテ大學ニ入ル準備ヲナサシム。東京及ビ京都ニ帝國大學アリテ法科、文科、理科、醫科、工科、農科等ノ深遠ナル學理ヲ攻究セシム。又

## 陸軍

醫學專門學校、高等商業學校、高等工業學校、音樂學校、美術學校等アリ、各専門ノ學術技藝ヲ授ク。府縣ニハ中學校同程度ノ農學校、商業學校、技藝學校等ノ設アル者少カラス。又高等女學校アリテ、女子ニ高等ノ普通學ヲ授ク。教員ヲ養成センガ爲メ、各府縣ニ一箇或ハ數箇ノ師範學校アリテ、小學校教員ヲ養成シ、東京ニ高等師範學校、女子高等師範學校アリテ、師範學校、中學校、高等女學校ノ教員ヲ養成ス。其ノ他陸軍大學、海軍大學、士官學校、兵學校等アリ。軍備 軍備ヲ嚴ニシ、國防ヲ全フシテ其ノ國ノ平和ヲ保ツハ國民ノ義務ナリ。我ガ國陸軍ノ兵制ハ全國ノ壯丁體格ノ検査ニ合格シタル者、抽籤ヲ以テ兵役ニ服スルコト三年、之ヲ現役ト云フ。現役畢リテ後、四年四箇月間ヲ豫備役ト

海軍

云ヒ、豫備ノ後五年間ヲ後備役にト云ヒ、戰役又ハ事變アルト  
 キニハ、豫備後備逐次ニ召集セラル。其ノ他滿十七年ヨリ  
 四十年マデヲ國民軍ト云ヒ、國家危急ノ時ニ召集セラル。  
 全國ノ軍ヲ近衛師團及ビ十二師團ニ分チ司令部ヲ要地ニ  
 置ク。而シテ十二師團中東京以北ノ四師團ハ東部都督部  
 ニ屬シ、廣島ヨリ西南ノ四師團ハ西部都督部ニ屬シ、其ノ間  
 ノ四師團ハ中部都督部ニ屬シ、各都督部ハ東京ニアリ。  
 海國ノ壯丁ハ募ニ應ジテ海軍ニ服役ス。其ノ現役四年、  
 豫備役三年、後備役五年ナリ。全國ノ海岸海面ヲ五區ニ分  
 チ、横須賀、吳、佐世保、舞鶴、室蘭ノ五軍港アリテ之ヲ管ス。軍  
 港ニハ鎮守府アリテ海兵團ヲ訓練シ、又所屬ノ艦隊アリテ  
 管内ヲ警戒ス。但シ室蘭ニハ未ダ鎮守府ナキヲ以テ、其ノ

外交

管内ハ横須賀ノ鎮守府之ヲ分管セリ。  
 以上陸軍現役ノ軍人凡ソ十四萬人、豫備後備等ヲ合ハセ  
 テ總計三十二萬人、海軍現役一萬九千人、豫備後備ヲ合ハセ  
 テ二萬三千人、軍艦大凡六十艘二十餘萬噸ナリ。

外交 本邦ト通商條約ヲ締結セル國國ハ朝鮮、支那、暹羅、佛  
 國、英國、白耳義、和蘭、獨逸、丁抹、露國、瑞典、那威、希臘、地  
 利、伊太利、瑞西、西班牙、葡萄牙、米國、墨西哥、巴西、亞然  
 丁、秘魯、及  
 ビ公果自由國ナリ。

財政

財政 此クノ如キ國家ノ費用ヲ國民ヨリ徵集スル之ヲ租  
 稅ト云フ。租稅ニハ國稅、府縣稅、市町村稅アリ、國稅ハ全國  
 ニ關スル費用ニシテ帝國議會ノ協賛ヲ要シ、府縣市町村稅  
 ハ府縣市町村會ノ決議ヲ要ス。吾ガ國國稅ノ重ナル者ハ

地租、所得稅、酒稅等ナリ。國庫ノ歲入歲出ハ日清戰役前ハ一億圓以内ナリシニ、戰後財政膨脹シテ二億三四千萬圓ニ至レリ。

政府ガ事業ヲ興ス等ノ爲メニ一時ニ金ヲ要スル時ハ國債ヲ起ス。國債ニ内國債アリ、外國債アリ。近時吾ガ國ハ内國債大凡四億萬圓ノミナリシガ、三十二年ニ至リ、外國債一千萬磅(大凡一億圓)ヲ募集セリ。

### 第十六章 沿革ノ概要

神武天皇以前  
神武天皇一統

上古我ガ國ニハ土蜘蛛ナド云ヘル蠻族住ミ、又蝦夷トテ今ノあいぬ人種モ本州ニ蔓延シ互ニ酋長アリテ相爭ヒシガ、九州ノ南部ハ早クヨリ吾ガ帝室ノ統治ノ下ニアリキ。神武天皇ニ至リ、日向ノ高千穗宮ヨリ出立テ、中州ヲ平定シ、

四道將軍  
日本武尊

位ニ樞原宮ニ即キ、帝國ノ基ヲ開キ給ヒキ。

紀元五百年代崇神天皇ハ四道將軍ヲ發遣シ給ヒ、七百年代景行天皇ハ皇子日本武尊ヲ遣ハシテ、西ハ熊襲ヲ征シ、東ハ蝦夷ヲ討タシメ給ヒ、皇威漸ク遠キニ及ビ、やまとノ名、遂ニ全國ノ稱トナレリ。次ノ帝成務天皇ハ初メテ山河ヲ界トシテ國界ヲ正シ、地方官ヲ任シ給ヒキ。

三韓

八百年代神功皇后新羅ヲ征シ給ヒテ、三韓即チ韓國ハ吾ガ屬國トナリシニ、一千三百年代齊明天皇ノ朝ニ新羅反シテ支那兵ヲ導キ、吾ガ國全ク三韓ヲ失ヒヌ。

區分

千八百年代桓武天皇ノ朝ニ全國ヲ畿内、七道、六十六箇國ニ定メラレ、爾來久シク之ニ因リシガ、明治二年奧羽二國ヲ分チテ、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後ノ七箇國トナシ、又

臺灣版  
ルニ入

蝦夷島ヲ改メテ北海道トナシ之ヲ十一箇國ニ分チテ畿内、八道八十四箇國トセラレタリ。十二年琉球ヲ我ニ專屬セシメテ沖繩縣ヲ置ク。二十七八年日清戰役ノ結果トシテ、支那ハ遼東半島及ビ臺灣、澎湖ヲ我ニ割讓セリ。然ルニ露獨佛三國同盟シテ我ニ忠告スル所アリシヲ以テ、我が政府胥議シテ遼東半島ヲ還附セリ。斯クシテ東ハ千島ヨリ西ハ臺灣ニ至ルマデ一千三百里ノ山河永ク萬世一系ノ天皇ヲ戴ケリ。

內國地理小誌終

附錄

周圍及ビ面積

屬島數ニ(五)アルハ一島ニシテ本州ト四國トニ屬スルモノアルニヨレリ

土	地	屬島數	周	圍	面	積	土	地	屬島數	周	圍	面	積	
本	州	一六六、五	二、四七五、四	一、四七五、二	一、四七五、二	一、四七五、二	壹	岐	一〇	三、七二五	八、六三	八、六三	八、六三	
四	國	七、五	六、七五、二	一、一八〇、七	一、一八〇、七	一、一八〇、七	對	馬	五〇	一、〇六、三	四、四七	四、四七	四、四七	
九	州	一五〇、〇	一、八四六、八	二、六二七、五	二、六二七、五	二、六二七、五	琉	球	—	三、五〇、六	一、五九、一	一、五九、一	一、五九、一	
北	海	道	本	島	一三〇、	六、二八、五	小	笠	原	島	二十	七、一五、八	四、五〇	四、五〇
千	島	三	島	十	—	六、三三、二	臺	灣	—	二、九〇、	三、五三、三	二、三五、九	二、三五、九	
佐	渡	—	—	—	—	三、三三〇、	澎	湖	島	—	七、四七、五	八、二一〇	八、二一〇	
隱	岐	—	—	—	—	七、五七、七	總	計	—	—	—	—	—	
淡	路	—	—	—	—	四〇、八、八	總	計	—	—	—	—	—	
		一〇、	四〇、八、八	三、六、九	三、六、九	三、六、九								

府縣管轄區域

附錄

京都	山城、丹後、丹波、大部	岐阜	美濃、飛驒
大阪	攝津、東部、河内、和泉	長野	信濃
兵庫	但馬、播磨、淡路、丹波、一部	群馬	上野
奈良	大和	栃木	下野
三重	伊賀、伊勢、志摩	福島	岩代、磐城、大部
愛知	尾張、三河	宮城	陸前、大部、磐城、一部
静岡	遠江、駿河、伊豆	岩手	陸中、大部、陸前及ヒ陸奥、一部
山梨	甲斐	青森	陸奥、大部
東京	武藏、中部、伊豆七島、小笠原島	秋田	羽後、大部、陸中、一部
埼玉	武藏、東北部	山形	羽前、羽後、一部
神奈川	武藏、一部、相模	福井	若狹、越前
千葉	下總、大部、上總、安房	石川	加賀、能登
茨城	常陸、下總、一部	富山	越中
滋賀	近江	新潟	越後、佐渡

岡山	美作、備前、備中	高知	土佐
廣島	備後、安藝	大分	豊後、豊前、東部
山口	周防、長門	宮崎	日向
鳥取	因幡、伯耆	福岡	豊前、西部、筑前、筑後
島根	出雲、石見、隠岐	佐賀	肥前、東半部
和歌山	紀伊	長崎	肥前、西半部、壹岐、對馬
徳島	阿波	熊本	肥後
愛媛	伊豫	鹿児島	薩摩、大隅
香川	讃岐	沖縄	琉球

人口一萬以上ノ有名ナル市町村

第十九統計年鑑ニ據ル

地	方	人口	地	方	人口
東京	武藏、東京市	1,460,133	京都	山城、京都市	353,355
大阪	攝津、大阪市	833,355	愛知	尾張、名古屋市	244,155



兵庫	攝津	神戸市	二五、六〇〇	鹿兒島	薩摩	鹿兒島市	五三、四八一
神奈川	武藏	横濱市	一五、七六二	新潟	越後	新潟市	五三、三六六
廣島	安藝	廣島市	一三、三〇六	大阪	和泉	境市	五〇、二〇三
長崎	肥前	長崎市	一〇、七四三	福井	越前	福井市	四四、二六六
石川	加賀	金澤市	八三、六六二	山口	長門	赤間關市	四二、七六六
宮城	陸前	仙臺市	八三、三三五	静岡	駿河	静岡市	四二、一七三
北海道	渡島	函館區	七八、〇四〇	山梨	甲斐	甲府市	三七、五八一
福岡	筑前	福岡市	六六、一九〇	長崎	肥前	佐世保村	三七、四八五
和歌山	紀伊	和歌山市	六三、六六七	北海道	石狩	札幌區	三七、四八三
徳島	阿波	徳島市	六一、五〇二	愛媛	伊豫	松山市	三五、五四五
熊本	肥後	熊本市	六一、四三三	高知	土佐	高知市	三五、五二一
富山	越中	富山市	五九、五五六	沖繩	琉球	那覇區	三五、四三三
岡山	備前	岡山市	五八、〇三五	山形	羽前	山形市	三五、二〇〇
北海道	後志	小樽區	五八、九六一	兵庫	播磨	姫路市	三五、二六三

青森	陸奥	弘前市	三四、七七一	群馬	上野	高崎市	三〇、八九三
島根	出雲	松江市	三四、六五二	山形	羽前	米澤市	三〇、七一九
群馬	上野	前橋市	三四、四九五	奈良	大和	奈良市	三〇、五三九
香川	讃岐	高松市	三四、四一六	秋田	羽後	秋田市	二九、四七七
滋賀	近江	大津市	三四、三三五	福島	岩代	若松市	二九、二〇〇
茨城	常陸	水戸市	三四、七六八	福岡	筑後	久留米市	二九、〇〇八
三重	伊勢	津市	三四、二六七	鳥取	因幡	鳥取市	二八、四九六
岩手	陸中	盛岡市	三四、九九九	青森	陸奥	青森市	二八、〇三九
佐賀	肥前	佐賀市	三四、七五三	三重	伊勢	宇治山田町	二七、九九〇
栃木	下野	宇都宮市	三四、〇九九	福岡	豊前	小倉町	二七、五〇四
岐阜	美濃	岐阜市	三四、九四三	千葉	下總	千葉町	二六、三三三
富山	越中	高岡市	三四、四九〇	福岡	豊前	門司市	二五、二七四
長野	信濃	松本町	三四、三三四	三重	伊勢	四日市市	二五、二三〇
長野	信濃	長野市	三四、三三九	香川	讃岐	丸龜市	二四、九七七

福島	兵庫	栃木	京都	愛知	山形	廣島	栃木	東京	群馬	長野	神奈川	沖繩	愛知
岩代福島町	播磨明石町	下野足利町	山城伏見町	三河豊橋町	羽後酒田町	備後尾道市	下野栃木町	武藏八王子町	上野桐生町	信濃上田町	相模横須賀町	琉球首里區	尾張熱田町
二〇、六二四	二一、二九六	二二、三三八	二二、五五五	二二、七八五	二二、九七七	二三、三三三	二三、三九九	二三、一〇三	二三、九九一	二四、二一四	二四、七五〇	二四、〇八九	二四、九二一
富山	徳島	宮城	神奈川	岐阜	栃木	埼玉	福岡	静岡	東京	三重	新潟	神奈川	山形
越中新港町	阿波撫養町	陸前石巻町	武藏神奈川町	美濃大垣町	下野足尾町	武藏川越町	筑後大牟田町	遠江濱松町	武藏品川町	伊勢桑名町	越後高田町	武藏戸太町	羽前鶴岡町
一七、八八四	一八、〇五七	一八、五七三	一八、八六二	一八、九九五	一九、〇五八	一九、〇九二	一九、二九一	一九、八五五	一九、九九六	二〇、一三三	二〇、三三五	二〇、三三三	二〇、八二一

千葉	福井	愛知	山口	廣島	滋賀	神奈川	鳥取	鹿兒島	東京	福井	山口	岐阜	大分
下總本銚子町	越前敦賀町	三河岡崎町	周防山口町	備後福山町	近江彦根町	相模小田原町	伯耆米子町	薩摩阿久根村	武藏千住町	越前武生町	長門萩町	飛騨高山町	豊前中津町
一七、八二四	一七、六八八	一七、四〇九	一七、三六七	一七、三三二	一六、八七九	一六、六七九	一六、〇八八	一六、〇六二	一五、九九九	一五、九四二	一五、八七七	一五、五二一	一五、二四九
兵庫	愛媛	福島	三重	愛知	長野	和歌山	奈良	兵庫	神奈川	秋田	富山	愛媛	石川
攝津尼ヶ崎町	伊豫今治町	磐城白河町	伊賀上野町	尾張一宮町	信濃飯田町	紀伊新宮町	大和郡山町	攝津西宮町	相模浦賀町	羽後能代港町	越中魚津町	伊豫宇和島町	加賀小松町
一五、〇六六	一四、九二二	一四、八五七	一四、三〇三	一四、二九九	一四、一〇〇	一四、〇六六	一三、九二七	一三、八九六	一三、八三六	一三、六三六	一三、五八二	一三、三六六	一三、二八九

宮崎	日向都城町	三二五	千葉	下總船橋町	三二四
大分	豐後大分町	三〇五	福岡	筑前若松町	三〇一
三重	伊勢松坂町	三〇五	靜岡	駿河沼津町	三〇四
秋田	羽後土崎港町	三九四	鹿兒島	大隅加治木村	三〇八
千葉	下總佐原町	三九六	廣島	安藝江田島村	三〇三
東京	武藏南千住町	三三三	福島	岩代郡山町	二八九
新潟	佐渡相川町	三九九	山口	周防三田尻村	二九四
栃木	下野鹿沼町	三三四	石川	能登七尾町	二七三
徳島	阿波小松島村	三三四	茨城	常陸土浦町	二六三
岡山	美作津山町	三三〇	愛媛	伊豫別子山村	二六七
山口	周防徳山村	三三六	福岡	岩代須賀川町	二五七
北海道	石狩岩見澤村	三三六	山形	羽前新庄町	二五九
秋田	羽後横手町	三三四	新潟	越後新發田町	二九九
埼玉	武藏熊谷町	三二七	青森	陸奥八戸町	二九〇

重要産物一年産出額

第十九統計年鑑ニ據ル但米麥ハ三十二年ノ總額ニシテ其ノ他ハ三十二年ノ統計ニヨレルモノ多シト知ルベシ

熊本	肥後八代町	一二九	島根	石見濱田町	一〇五九
靜岡	駿河島田町	一〇三三	石川	能登輪島町	一〇五九
福島	磐城平町	一〇八一	茨城	下總結城町	一〇五七
新潟	越後沼垂町	一〇七〇	新潟	越後直江津町	一〇五九
東京	武藏王子村	一〇六四	佐賀	肥前唐津町	一〇二七
靜岡	駿河大宮町	一〇四五	滋賀	近江長濱町	一〇四五
米	三九九、〇三三石		銀	一、六一八、二四三匁	
麥	一九〇、三三〇石		銅	二五〇、三九五斤	
大豆	三〇、八七〇石		鐵	六九、六〇〇貫	
實綿	七、七三三貫		石炭	六、七〇〇、〇〇〇噸	
大麻	三、七五七貫		綿絲	四、〇〇〇、〇〇〇貫	
葉藍	七、五八二貫		絹反物	一、三三六、六四九反	
			酒	四、五、五七三石	
			木綿反物	六、四、四九、一五反	
			陶器	四、九、六三、三五圓	
			漆器	四、八、五三、三圓	
			銅器	一、九、四、三〇圓	
			紙	一、三、九、一〇七圓	
			生絲類	三、七、四、一六貫	
			茶	七、四、三、九七貫	
			鹽	六、八、〇、二七石	
			金	三、七、一、一四五匁	

重要輸出產物額 明治三十二年未調

米	一〇八、二〇二圓	生絲類	六七〇、一八〇六圓	石炭	一五、六四六六圓	摺附木	五八、〇六六六圓
茶	八、九八六三圓	絹布類	三、五、四七四圓	熟銅	一、三、一八七六圓		

重要輸入產物額 明治三十二年未調

豆類	八、三三二圓	綿絲類	五、三、七九四圓	毛織及毛織類	八、五、二七五〇圓	烟草類	六〇、六三二圓
砂糖類	一、七、四、五三〇圓	綿布類	九、〇、七、四三六圓	鐵物類	一、五、〇、四三六圓	石油	七、六、一、八四九圓

輸出入比較

輸出入	年次	
	明治二十九年	明治三十年
輸出	一、三、二、六、五二圓	一、七、七、七、五九七圓
輸入	二、八、七、二、八七四圓	二、七、四、一、七、〇五三圓
	明治三十一年	明治三十二年
輸出	一、八、〇、六、七三三圓	二、九、四、九、六九三圓
輸入	三、四、一、三、九四八圓	三、四、三、三、八五六圓

陸軍管區

區劃	海軍管區		陸軍管區	
	都督部	師團	聯隊	警備隊
西部都督部	第五	廣島	第一	東京麻布
	第六	熊本	第二	仙臺
中部都督部	第九	福知山	第七	札幌
	第十	金澤	第八	弘前
東部都督部	第三	名古屋	第一	東京麻布
	第四	大阪	第二	仙臺
警備隊	第五	廣島	第一	東京麻布
	第六	熊本	第二	仙臺
師團	第十一	小倉	第一	東京麻布
	第十二	大分	第二	仙臺
聯隊	第一	東京麻布	第一	東京麻布
	第二	仙臺	第二	仙臺
警備隊	第一	東京麻布	第一	東京麻布
	第二	仙臺	第二	仙臺

第一	熊野沖ヨリ太平洋海岸海面	相模國三浦郡横須賀港	横須賀鎮守府
第二	紀州灘ヨリ瀬戸内海、四國及ビ九州東部ノ海岸海面	安藝國安藝郡吳港	吳鎮守府
第三	九州西部ヨリ沖繩諸島ニ至ル海岸海面	肥前東彼杵郡佐世保港	佐世保鎮守府
第四	日本海ノ海岸海面	丹後國加佐郡舞鶴港	舞鶴鎮守府
第五	北海道及ビ陸奥附近ノ海岸海面	膽振國室蘭郡室蘭港	室蘭鎮守府(未開廳)

舞鶴及ビ室蘭鎮守府ヲ設置スルマデノ間第四海軍區中越後以東及ビ第五海軍區ヲ横須賀鎮守府ニ管セシメ第四海軍區中越中以西ヲ吳鎮守府ニ管セシム

### 各國物産大要

#### 畿内

〔山城〕茶、松茸、鮎、西陣織、染物、陶器、銅器、漆器、人形、扇、紅、白粉 〔大和〕漆、木材、葛、奈良晒、奈良漬、奈良人形、大和耕、三輪索麵 〔河内〕綿、菜種、木綿、寒天、種油、道明寺糰 〔和泉〕貝類、鐵器、段通 〔攝津〕綿、菜種、花崗石、牛、鯉、寒天、種油、酒、池田炭、煉瓦、燐寸、革、

#### 東海道

〔伊賀〕茶、伊賀燒 〔伊勢〕米、茶、蝦、蛤、貝、珠、萬古燒、津緞子、染形紙、松坂縞 〔志摩〕海草、貝、珠 〔尾張〕米、麥、藍、綿、大根、瀬戶燒、七寶燒、鳴海絞、扇、酒、醬油 〔三河〕藍、綿、花崗石、木綿 〔遠江〕茶、石油、椎茸、鰹節 〔駿河〕茶、興津鯛、鰹節、漆器、竹細工紙 〔甲斐〕繭、生絲、水晶、葡萄、郡内織、甲斐組 〔伊豆〕石材、木材、鰹節、雁皮紙、山葵 〔相模〕馬鈴薯、明礬、鰹其、他海魚、貝類 〔武藏〕茶、繭、生絲、米、大麥、大豆、煙草、海苔、秩父絹、八王寺織、雙子縞、硝子、紙、錦繪 〔安房〕繭其、他海魚、海草、房州砂 〔上總〕繭其、他海魚、鰹節 〔下總〕茶、鹽、味噌、醬油、佐倉炭、銚子縮結城、紬、結城木綿、鰹節 〔常陸〕烟草、蕎麥、蒟蒻、大理石、

#### 東山道

〔近江〕米、茶、艾、鯉、鮎、縮緬、晒布、蚊帳、信樂燒 〔美濃〕米、茶、柿、鮎紙、團扇、油團、陶器 〔飛騨〕生絲、銀、木材、漆 〔信濃〕生絲、蕎麥、馬鈴薯、材木、漆、寒天、上田縞 〔上野〕生絲、蠟石、石灰、桐生織物、伊勢崎銘仙 〔下野〕銅、漆、麻、足利絹、真岡木綿、日光塗 〔磐城〕生絲、馬 〔岩代〕生絲、金、銀、漆、會津塗、陶器 〔陸前〕米、埋木、鮎、鮎、仙臺平雄勝石 〔陸中〕米、生絲、金、銅、鐵、漆、牛、馬、鮎、南部縮緬、南部釜、南部表 〔陸奥〕米、硫黃、漆、鮎、津輕塗、晒蠟 〔羽前〕生絲、紅花、薄荷、米澤系織、大山

酒〔羽後〕米、生絲、銅、銀、鉛、硫黃、木材、漆、淳代塗、秋田畝織。

### 北陸道

〔若狹〕銅、漆器 〔越前〕綠礬、麻、蚊帳、雲丹羽二重、奉書袖、紙 〔加賀〕苧、麻、銅、漆、鹽、繭、九谷燒、絹、銅器 〔能登〕漆、茶、繭、鹽、輪島塗、索麴 〔越中〕米、賣藥、銅器、鐵器 〔越後〕米、石油、馬鈴薯、麻、銅、石炭、鮭、鱈、縮、上布、紬、五泉平 〔佐渡〕金、銀、鳥賊牛、

### 北海道

〔渡島〕硫黃、鮭、昆布、海參、鮭、鮑、鮑等海產、以下同シ 〔後志〕石炭、海產 〔石狩〕石炭、鮭、海產、麥酒、砂糖 〔天鹽〕昆布、其ノ他海產 〔北見〕黃金、海產 〔膽振〕硫黃、海產 〔日高〕海產 〔十勝〕海產 〔釧路〕硫黃 〔根室〕海產 以上諸國ニ木材、熊、鹿等多シ。 〔千島〕硫黃、海豹、獺、虎、鼠、納獸、

### 山陽道

〔播磨〕石材、鹽、明石鯛、姫路革醬油 〔美作〕雲齋織 〔備前〕平、鱒、疊表、伊部燒、長船刀 〔備中〕鐵、牛、疊表 〔備後〕鐵、鹽、疊表、保命酒 〔安藝〕鐵、麻、牡蠣、廣島藥、鐵 〔周防〕鹽、岩國縮、蠟 〔長

門〕蠟、石、硯石、鐵、石炭、鯨、鳥賊、繭、蠟

### 山陰道

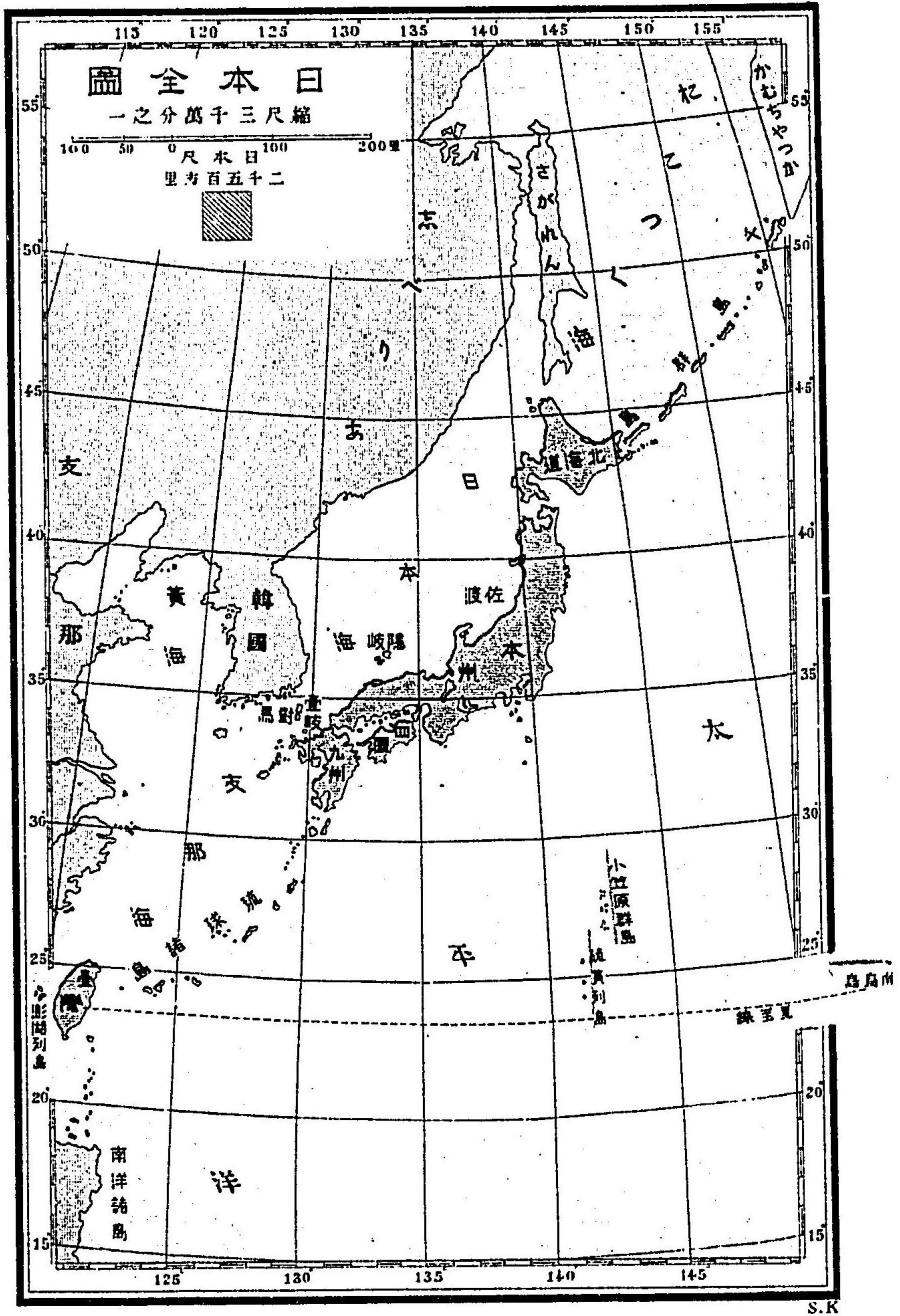
〔丹波〕粟、松茸牛 〔丹後〕牛、海魚、縮緬 〔但馬〕牛、金、銀、柳、行李、出石燒 〔因幡〕硯石、白珊瑚、木綿 〔伯耆〕鐵、水品、白珊瑚、木綿 〔出雲〕人參、牛、鐵、十六島海苔、鱈 〔石見〕銀、半紙 〔隱岐〕板、材、鮑、海參、鰯 諸國ニ蜂蜜ヲ產ス。

### 南海道

〔紀伊〕蜜柑、木材、熊野備長、鯨、紋羽織、ねる、漆器、水豆腐 〔淡路〕石材、陶器、夏蜜柑 〔阿波〕鹽、鹽、鳴門鯛、阿波縮 〔讃岐〕甘蔗、鹽、保多綿 〔伊豫〕銅、芥、鉛、安賀蒙、海魚、紙 〔土佐〕木材、鱈、節、眞珠、珊瑚、紙、樟腦、

### 西海道

〔筑前〕石炭、蠟、種油、博多織 〔筑後〕石炭、蠟、種油、疊表、久留米、緋 〔豐前〕石炭、小倉織 〔豐後〕樟腦、疊表 〔肥前〕石炭、烟草、鯨、鮑、雲丹、鮭、蠶、種油、樟腦、陶器 〔肥後〕米、馬、疊表、砂糖 〔日向〕金、銀、錫、樟腦、椎茸 〔大隅〕金、甘蔗、烟草、馬、疊表、砂糖 〔薩摩〕金、銀、甘蔗、烟草、馬、鱈、節、砂



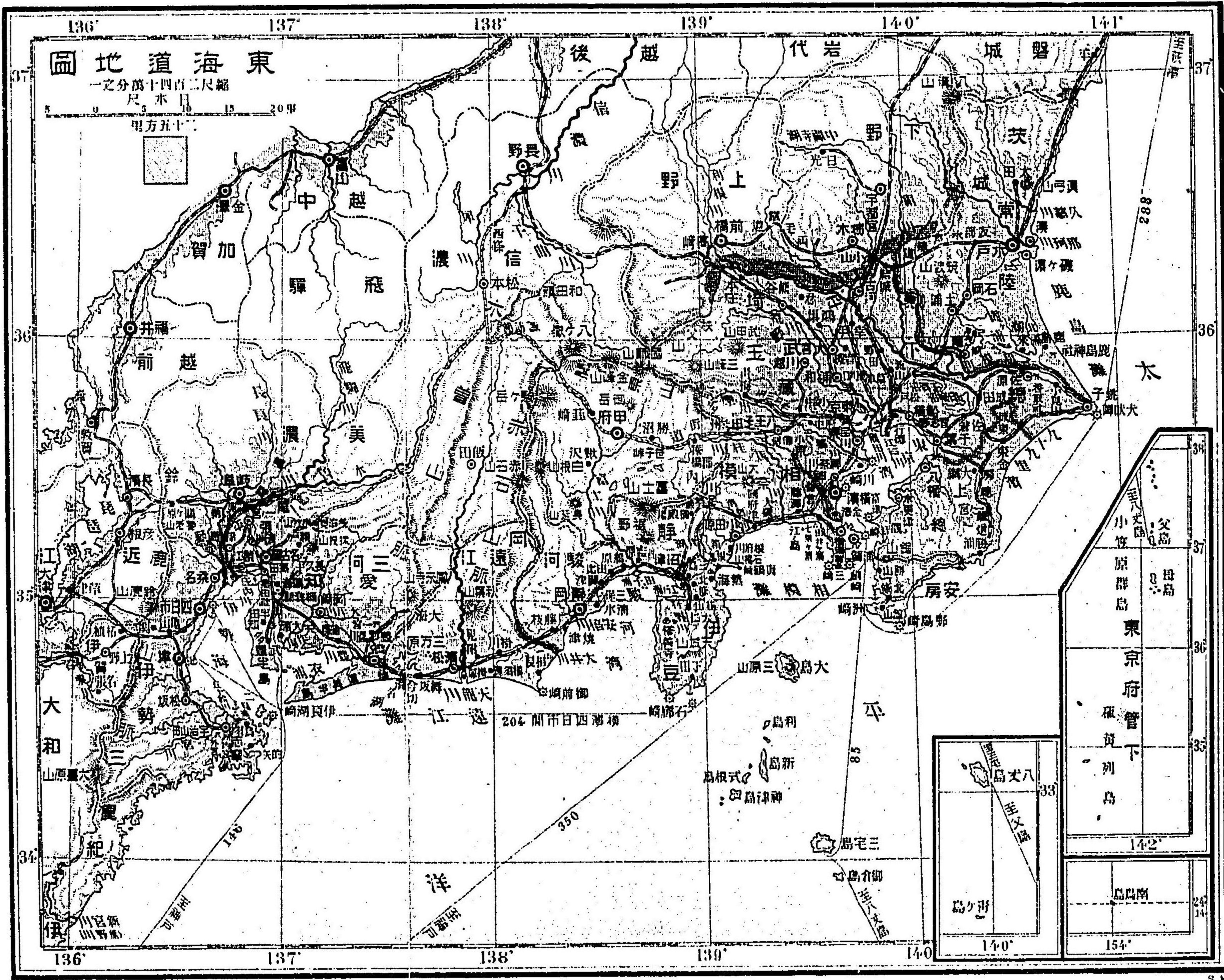
大尾

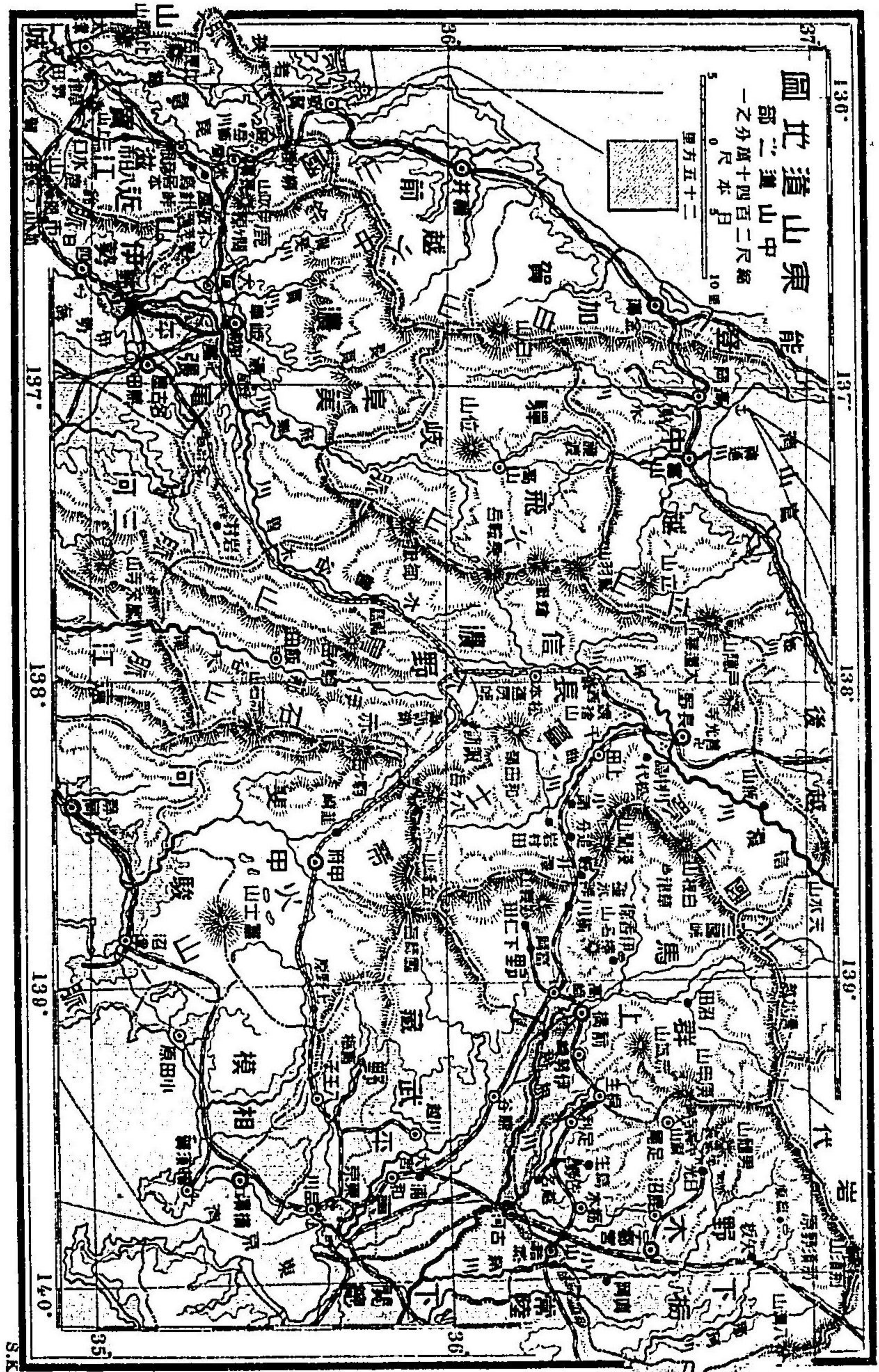
糖、陶器、燒酎 [壹岐] 鮫、鮑、海參、鰻、雲丹 [對馬] 鮫、鮑、海參、鰻、雲丹 [琉球] 馬、鯨、玳瑁、砂糖、泡盛酒、漆器 [臺灣] 砂糖、石炭、樟腦、茶

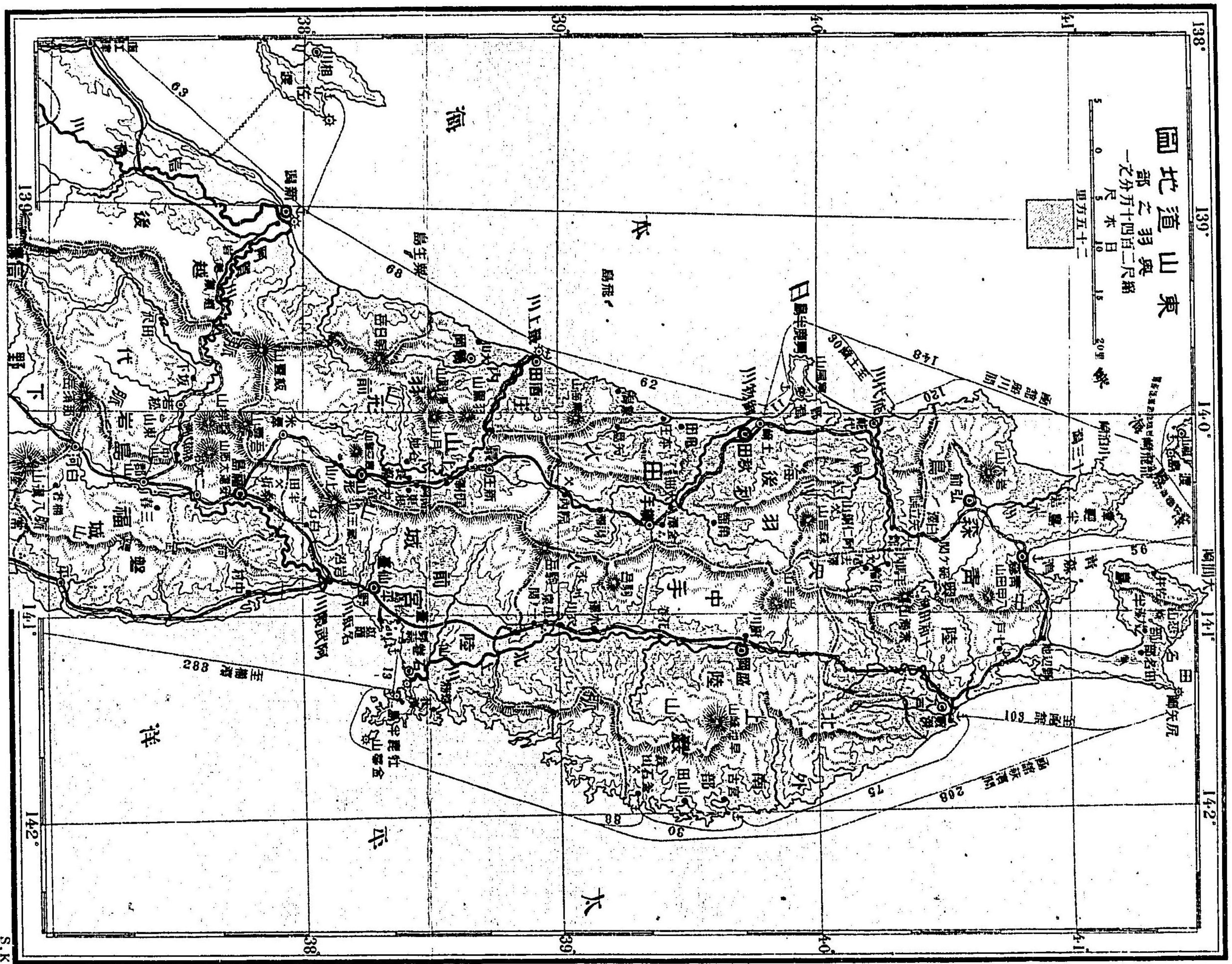










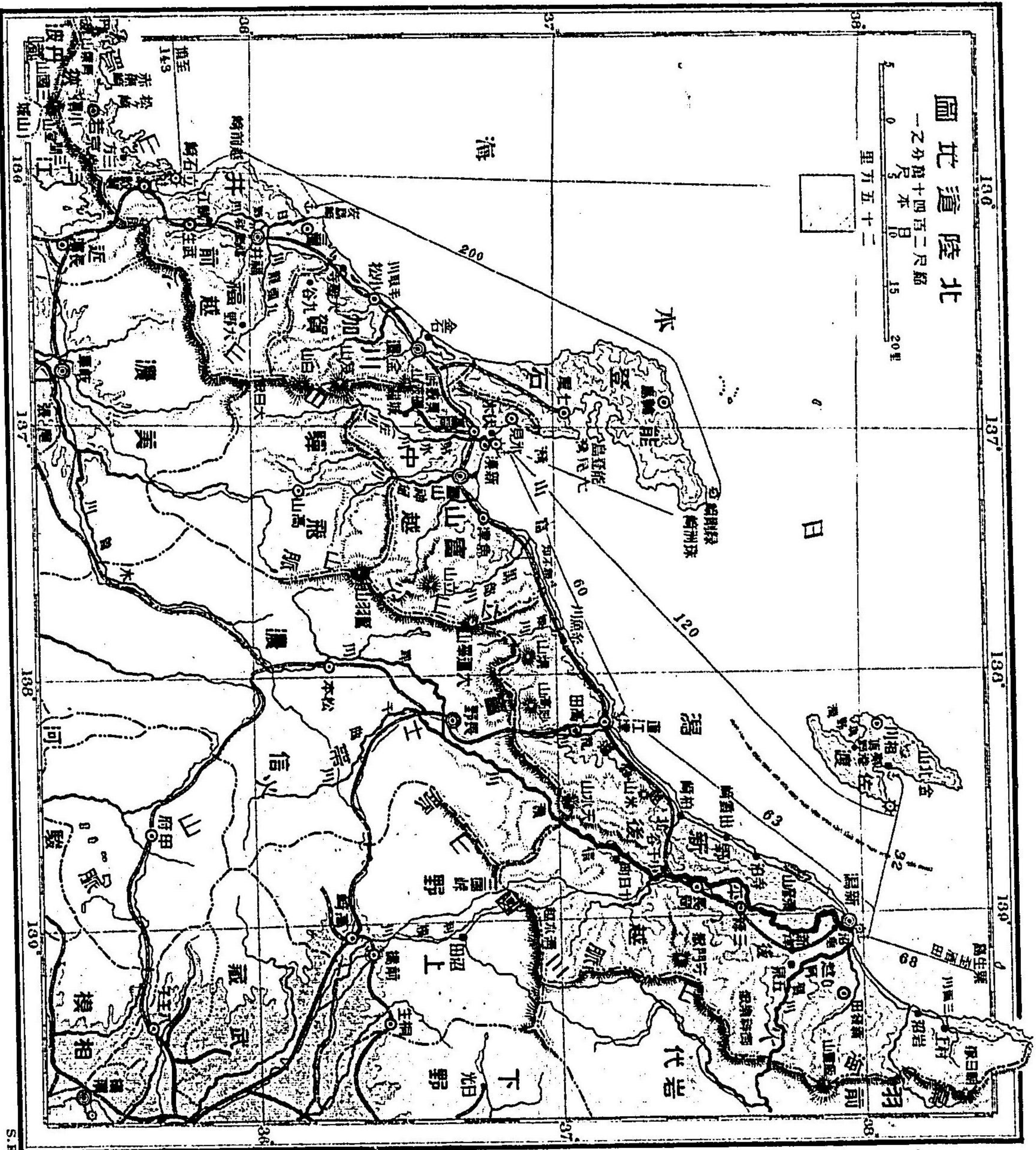


奥羽東山道地圖

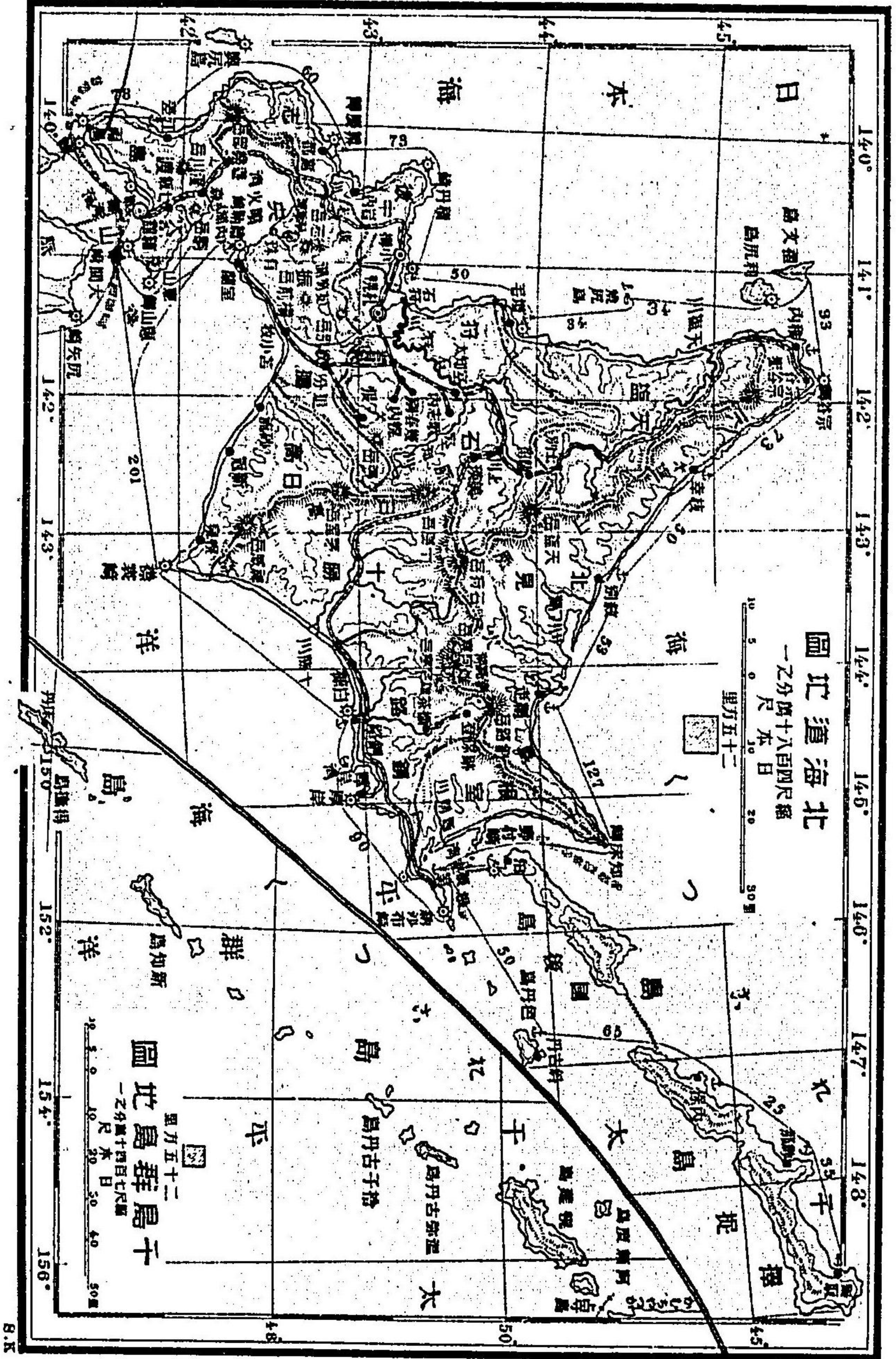
縮尺 一万分四千二百

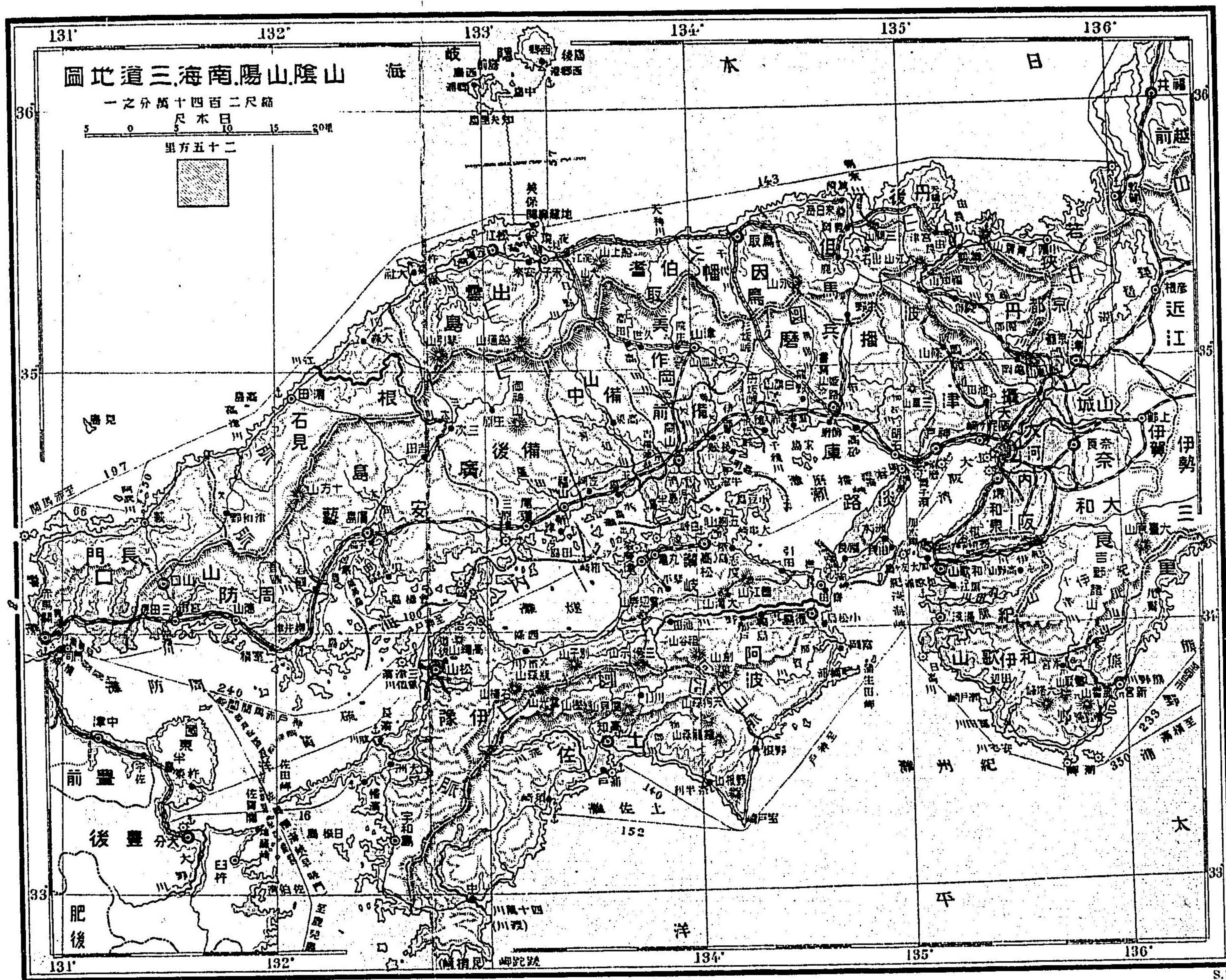
里万五十二

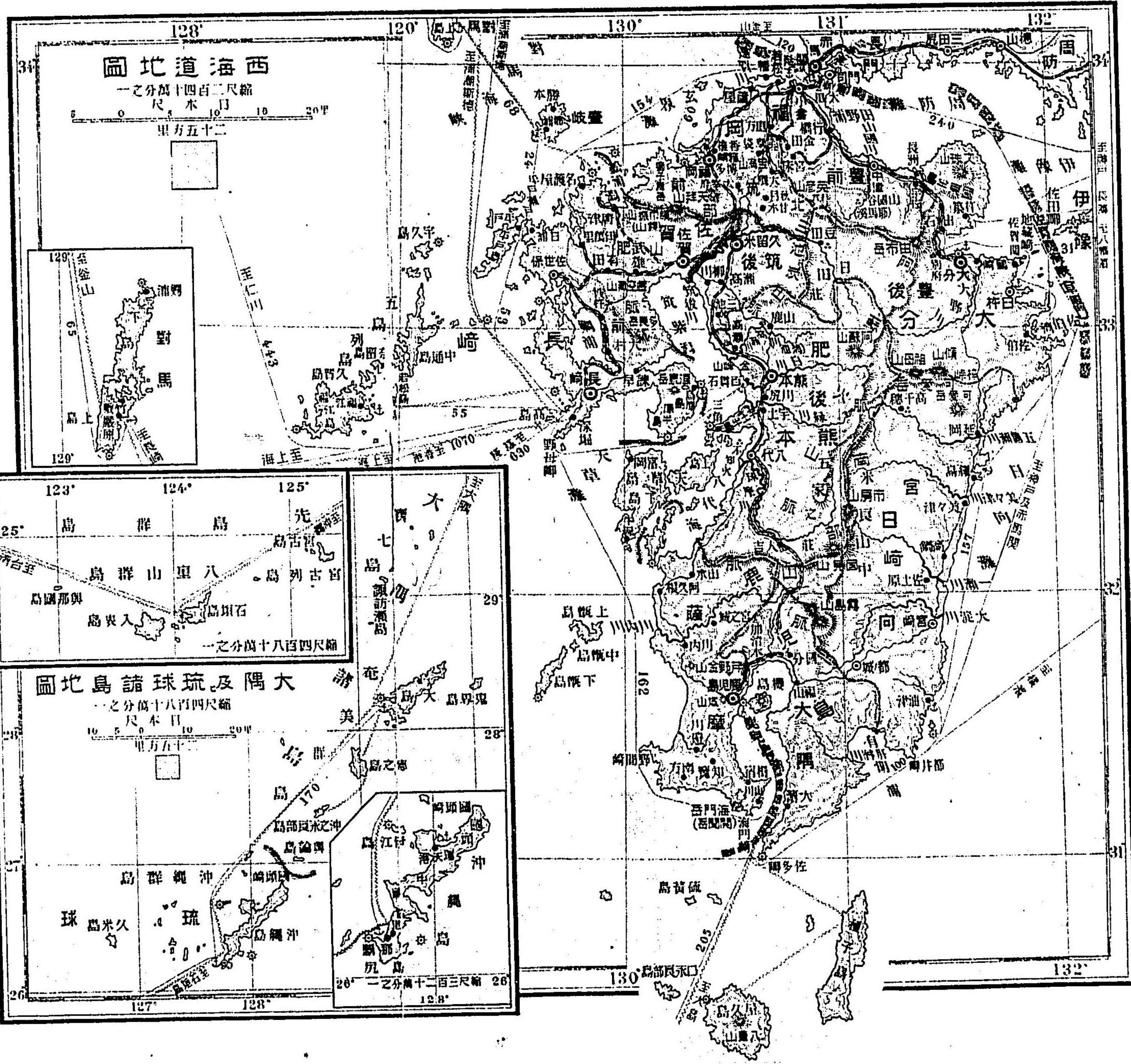
S.K



S.K.



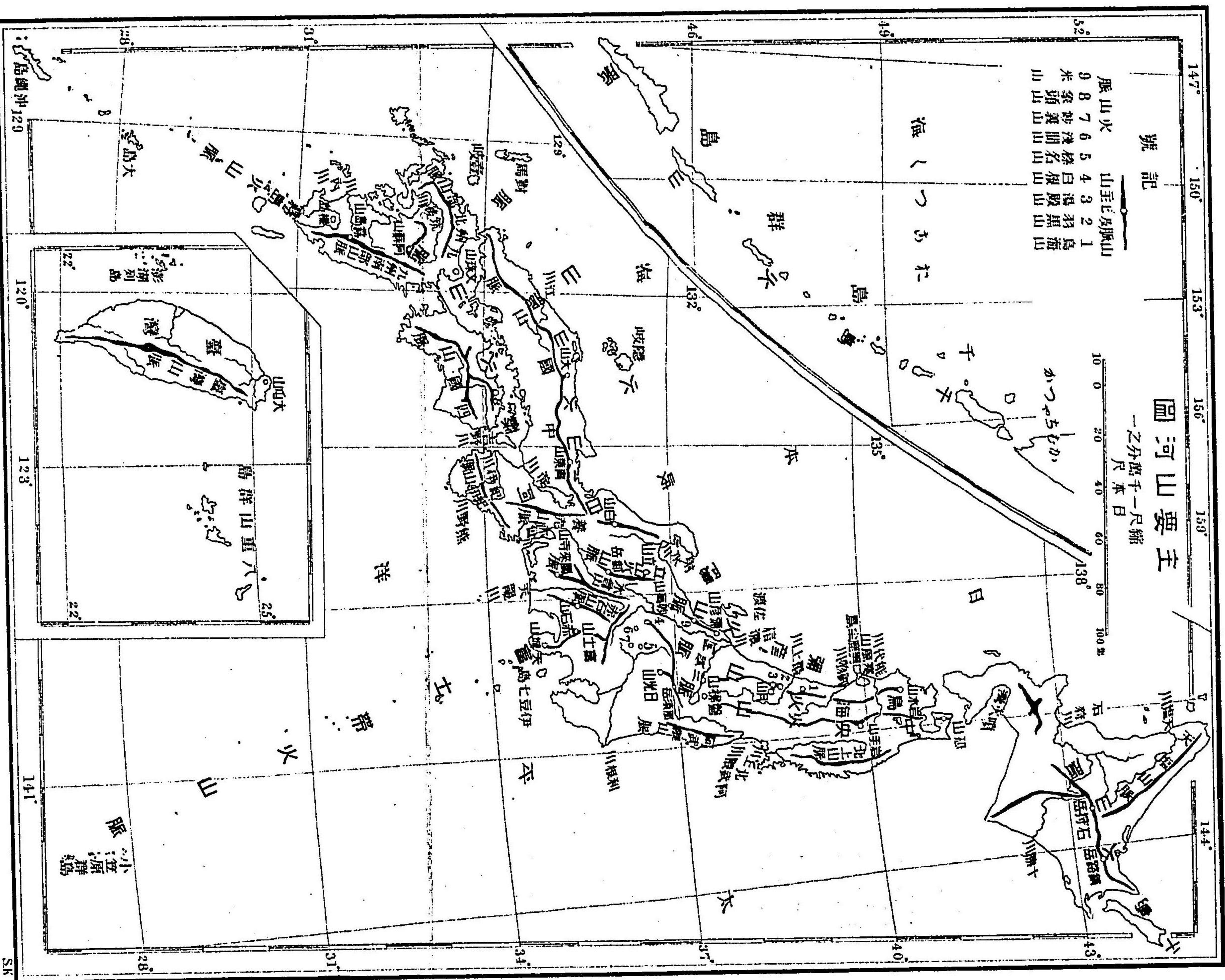




手繪  
 民國十七年八月







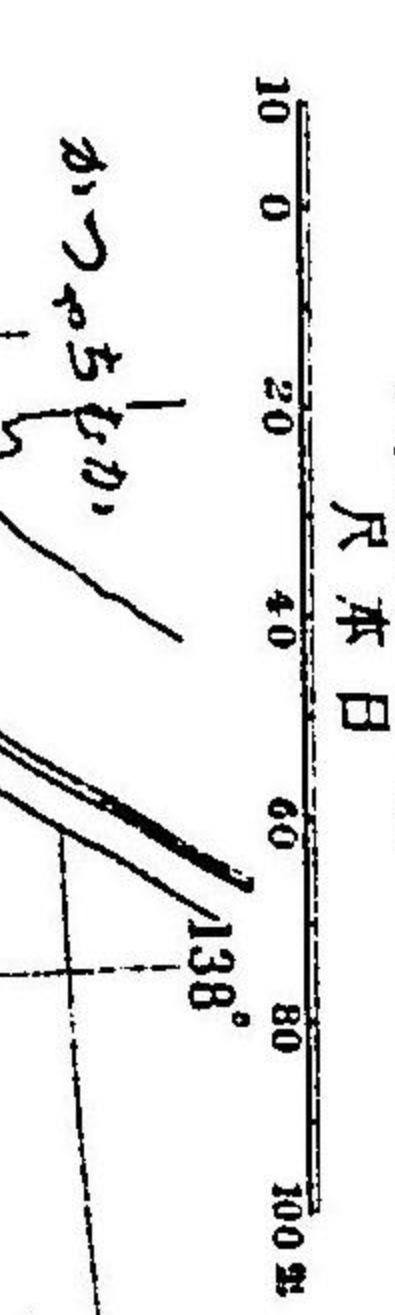
主山河山圖

縮尺一千分之二

日本尺

- 記 號
- 1 島海山
  - 2 羽黒山
  - 3 湯殿山
  - 4 白根山
  - 5 榛名山
  - 6 淺間山
  - 7 妙義山
  - 8 祭頭山
  - 9 旗山

海つおた

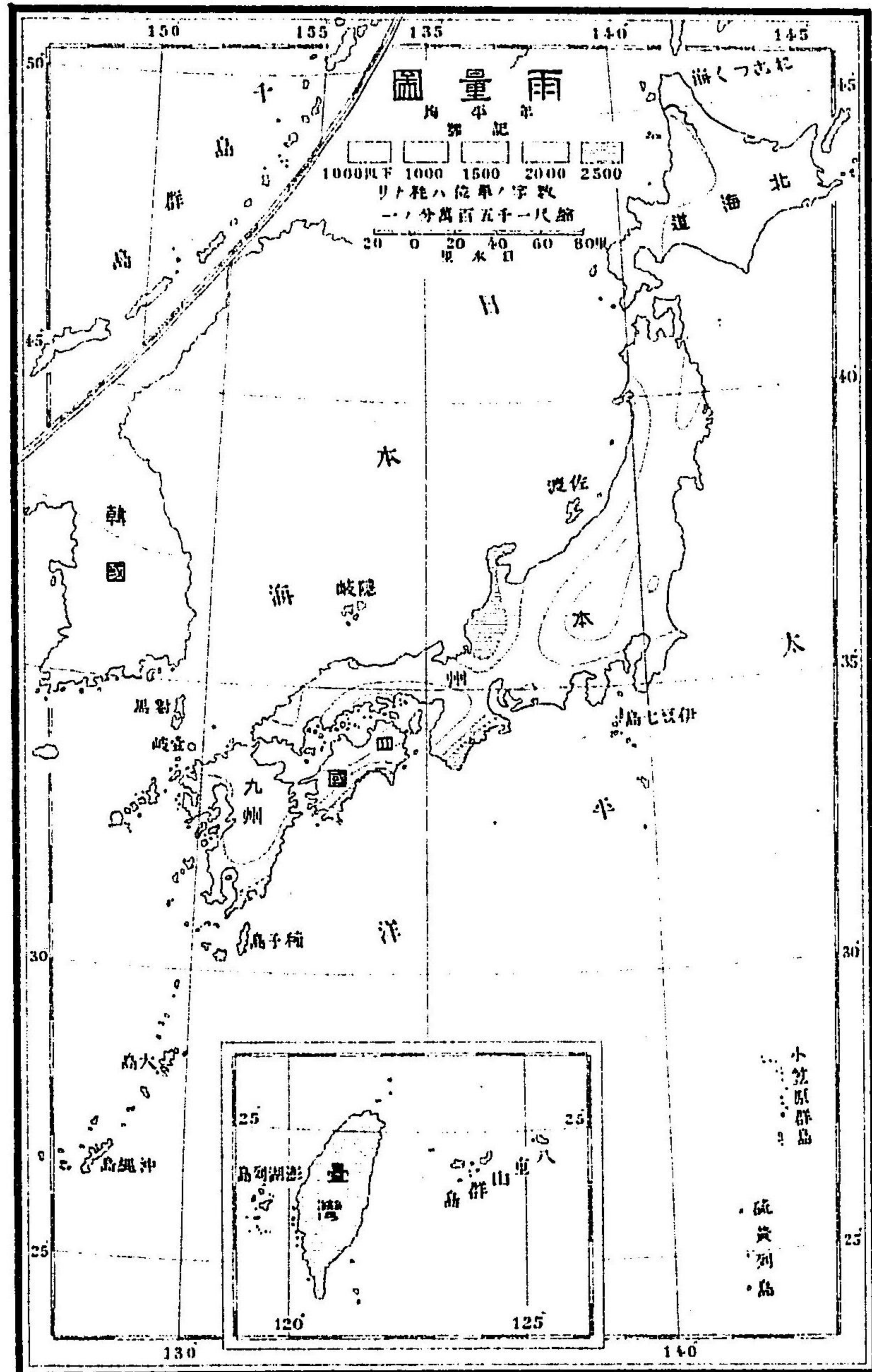


小笠原群島

SK







明治三十四年十一月廿六日印刷  
明治三十四年十一月三十日發行

內國地理小誌

定價金八拾五錢

著者作  
新保盤次

發行者兼  
金港堂書籍株式會社  
東京市日本橋區本町三丁目十七番地

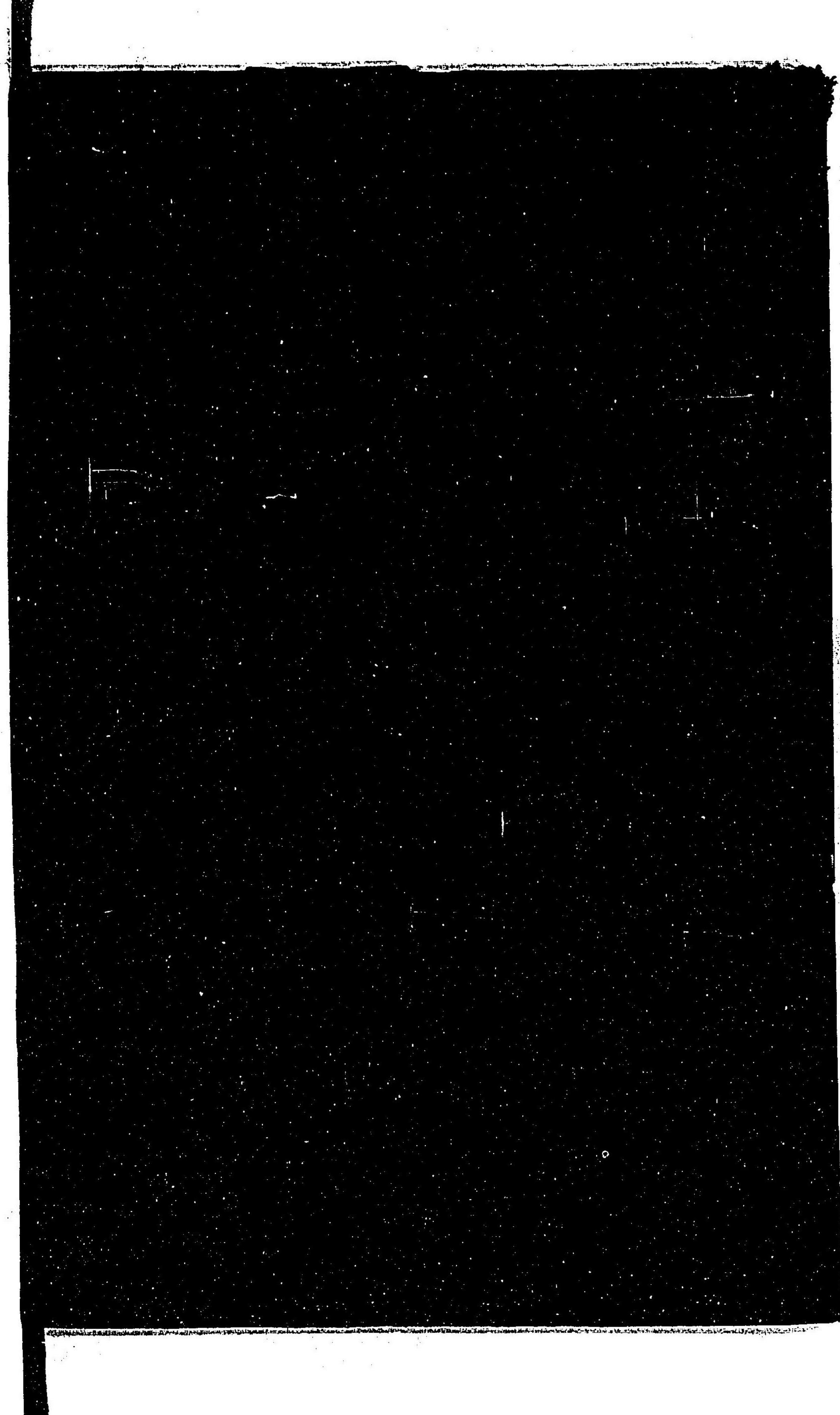
代表者  
右社長  
原亮一郎  
東京市下谷區龍泉寺町四百十四番地

印刷所  
合資會社  
東京國文社  
東京市京橋區宗十郎町十五番地

賣捌所  
各府縣特約賣捌所

不許複製

93
39





93  
39

022727-000-6

93-39

内国地理小誌

新保 警次 / 著

M34

ADB-0512



